

令和4年度第3回 インターネット都政モニターアンケート

「歯と口の健康」と「献血への意識」について

調査結果



調査実施の概要

1 アンケートテーマ

「歯と口の健康」と「献血への意識」について

2 アンケート目的

① 歯と口の健康

東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」が令和5年に期間終了を迎えるため、目標の達成状況の把握と新たな計画の検討等の参考とする。

② 献血への意識

都民の献血への意識を把握し、今後の広報・献血動員施策展開の参考と、令和5年度東京都献血推進計画の基礎資料とする。

3 アンケート期間

令和4年9月7日（水曜日）から9月13日（火曜日）まで

4 アンケート方法

インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力する。

5 インターネット都政モニター数

500人

6 回答者数

492人（「献血への意識」は491人）

7 回答率

98.4%（「献血への意識」は98.2%）

「歯と口の健康」と「献血への意識」について

1 調査項目

<歯と口の健康>

- Q 1 現在の健康状態
- Q 2 歯と口の健康への関心
- Q 3 現在の歯と口の健康状態
- Q 4 歯と口の健康に満足していない理由
- Q 5 現在の歯の数
- Q 6 噛んで食べる時の状態
- Q 7 歯と口の健康を維持するために実行していること
- Q 8 歯と口の健康と全身の健康との関わりに対する認知
- Q 9 周術期の口腔ケアの認知度
- Q 10 かかりつけ歯科医の有無
- Q 11 かかりつけ歯科医を決めた理由
- Q 12 かかりつけ歯科医で受けていること
- Q 13 かかりつけ歯科医での定期健診の頻度
- Q 14 かかりつけ歯科医を決めていない理由
- Q 15 歯と口の健康について（自由意見）

<献血への意識>

- Q 16 献血について知っていること
- Q 17 献血ルームのイメージ
- Q 18 献血の経験
- Q 19 献血をしたきっかけ
- Q 20 今後の献血の意向
- Q 21 献血をしようと思わない理由
- Q 22 知っている献血の広報・普及啓発活動
- Q 23 献血の広報・普及啓発活動として効果的と思うもの
- Q 24 献血者を増やすために発信すべき情報
- Q 25 献血についての要望・意見（自由意見）

<歯と口の健康>

		モニター 人数	回 答		
			人数	構成比	率
全 体		500	492	-	98.4
性 別	男性	250	247	50.2	98.8
	女性	250	245	49.8	98.0
年 代 別	18・19歳	9	9	1.8	100.0
	20代	64	63	12.8	98.4
	30代	83	78	15.9	94.0
	40代	93	93	18.9	100.0
	50代	85	85	17.3	100.0
	60代	78	77	15.7	98.7
	70歳以上	88	87	17.7	98.9
職 業 別	自営業	51	50	10.2	98.0
	常勤	221	217	44.1	98.2
	パート・アルバイト	46	45	9.1	97.8
	主婦・主夫	92	91	18.5	98.9
	学生	27	27	5.5	100.0
	無職	63	62	12.6	98.4
居住地域別	東京都区部	344	339	68.9	98.5
	東京都市町村部	156	153	31.1	98.1

<献血への意識>

		モニター 人数	回 答		
			人数	構成比	率
全 体		500	491	-	98.2
性 別	男性	250	246	50.1	98.4
	女性	250	245	49.9	98.0
年 代 別	18・19歳	9	8	1.6	88.9
	20代	64	63	12.8	98.4
	30代	83	78	15.9	94.0
	40代	93	93	18.9	100.0
	50代	85	85	17.3	100.0
	60代	78	77	15.7	98.7
	70歳以上	88	87	17.7	98.9
職 業 別	自営業	51	50	10.2	98.0
	常勤	221	217	44.2	98.2
	パート・アルバイト	46	45	9.2	97.8
	主婦・主夫	92	91	18.5	98.9
	学生	27	26	5.3	96.3
	無職	63	62	12.6	98.4
居住地域別	東京都区部	344	339	69.0	98.5
	東京都市町村部	156	152	31.0	97.4

※ 集計結果は百分率（%）で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、合計が100.0%にならないものがある。

※ n (number of cases) は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

※ 複数回答方法・・・(MA) = いくつでも選択、(3MA) = 3つまで選択、(2MA) = 2つまで選択

■ 歯と口の健康

東京都では東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」（以下「計画」）を掲げて、乳幼児期から高齢期まで、生涯にわたる歯と口の健康づくりを推進しています。

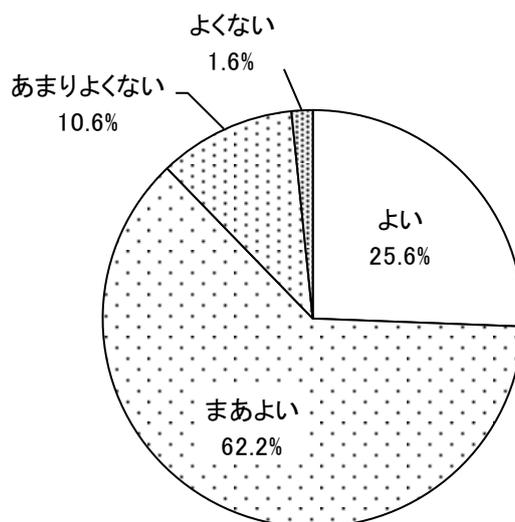
この度、現行の計画が令和5年に期間終了を迎えることから、目標の達成状況を把握するとともに、新たな計画について検討することとなりました。

今回のアンケート結果を今後の東京都の歯科施策の参考とさせていただくため、モニターの皆様にご意見を伺います。

現在の健康状態

Q1 全体的にみて、あなたの健康状態はいかがですか。

(n = 492)



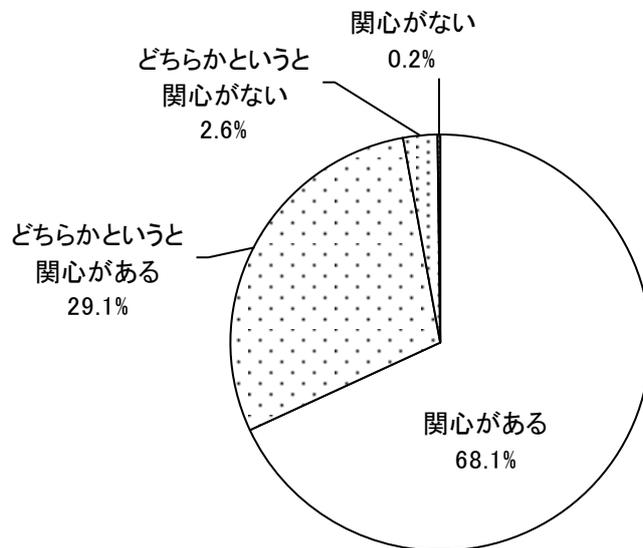
【調査結果の概要】

現在の健康状態について聞いたところ、『よい』(87.8%)（「よい」(25.6%)、「まあよい」(62.2%)）が9割近くで、『よくない』(12.2%)（「あまりよくない」(10.6%)、「よくない」(1.6%)）は1割超であった。

歯と口の健康への関心

Q2 あなたは、ご自身の歯と口の健康に関心を持っていますか。

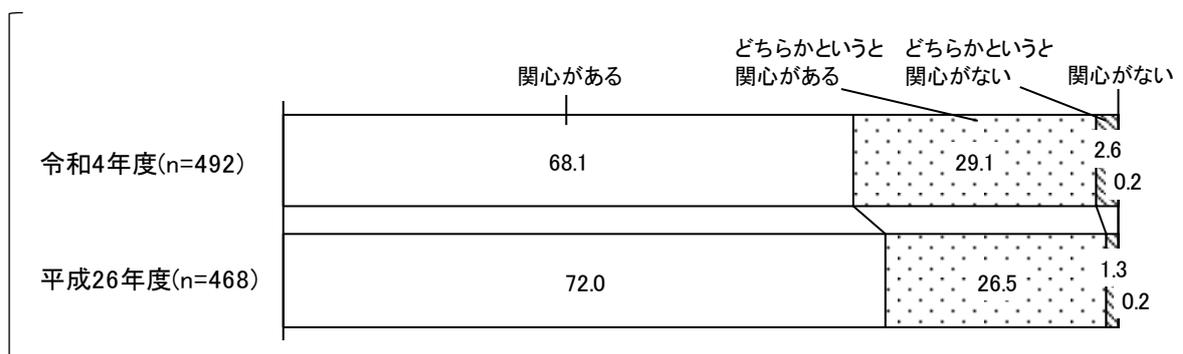
(n = 492)



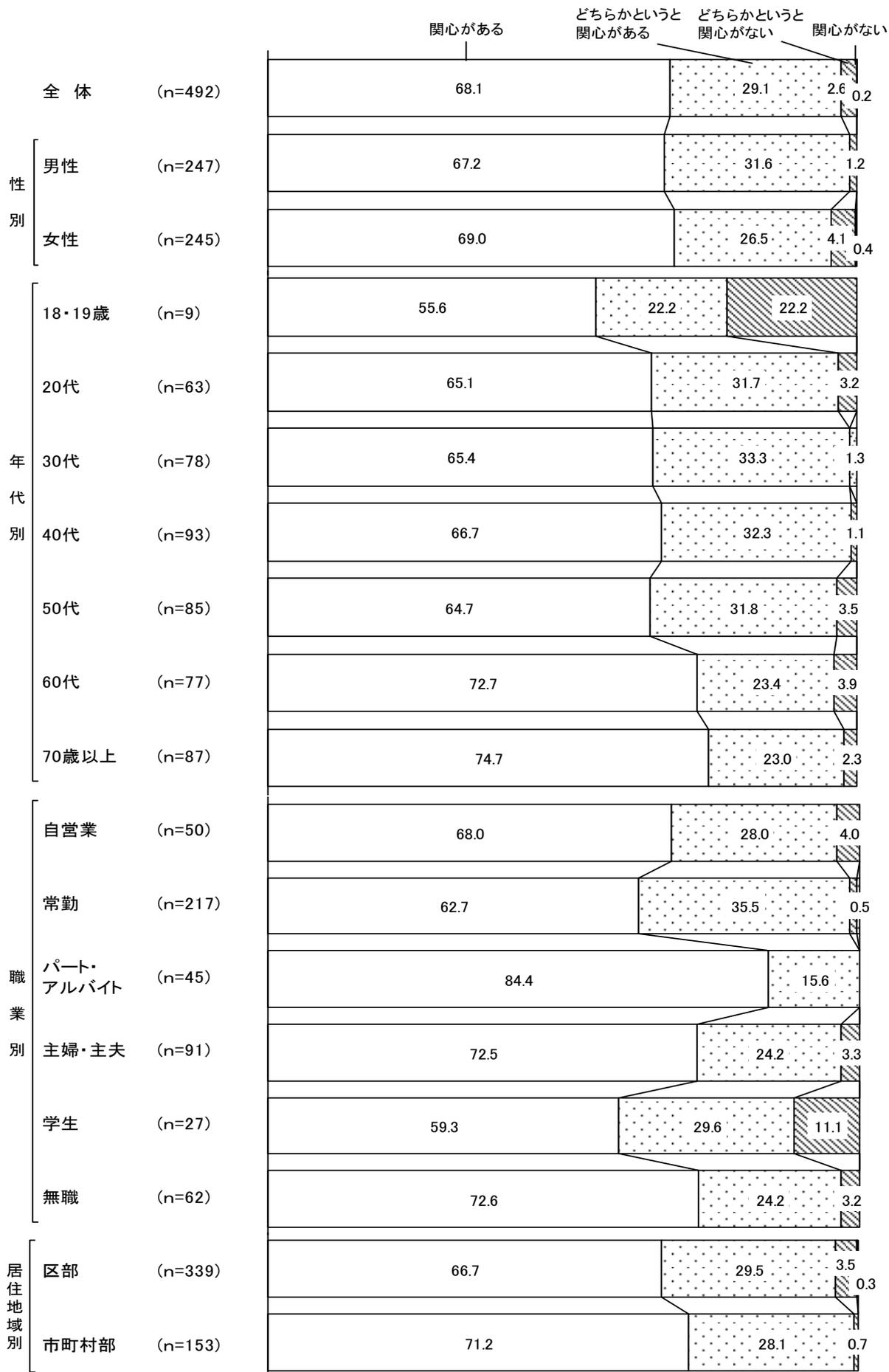
【調査結果の概要】

歯と口の健康への関心について聞いたところ、『関心がある』(97.2%) (「関心がある」(68.1%)、「どちらかというに関心がある」(29.1%))が全数近くで、『関心がない』(2.8%) (「どちらかというに関心がない」(2.6%)、「関心がない」(0.2%))は1割未満であった。

◎前回調査との比較 (前回：平成26年6月実施「歯と健康」)



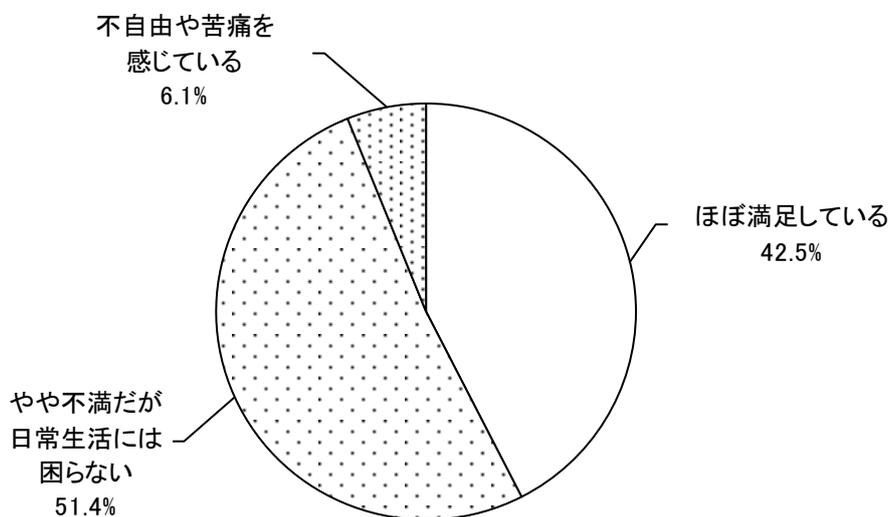
◎歯と口の健康への関心 (属性別)



現在の歯と口の健康状態

Q3 あなたは、ご自身の歯・口や入れ歯の状態について、どのように感じていますか。

(n=492)



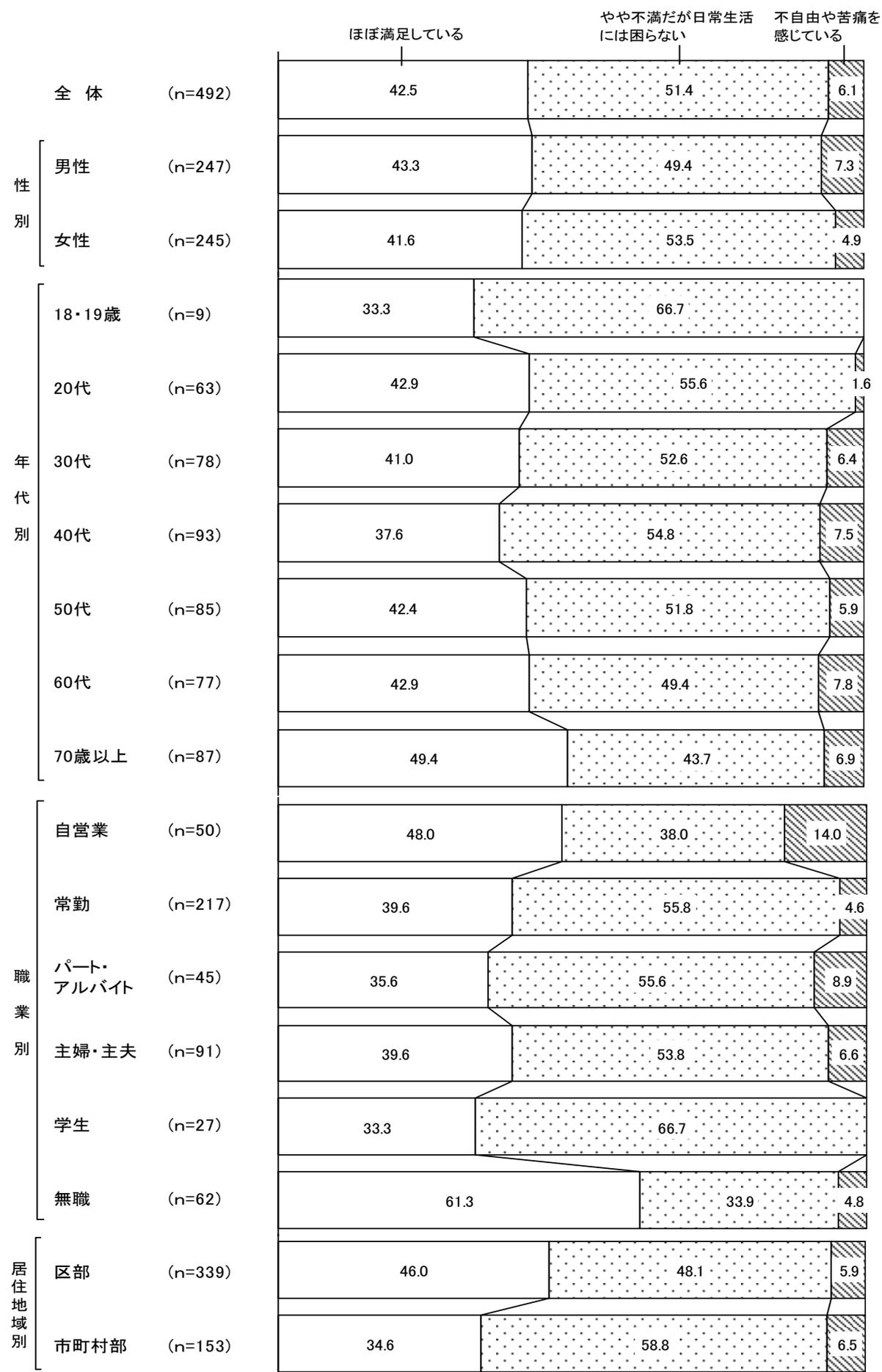
【調査結果の概要】

現在の歯と口の健康状態について聞いたところ、「やや不満だが日常生活には困らない」(51.4%)が5割を超えて最も高く、以下、「ほぼ満足している」(42.5%)、「不自由や苦痛を感じている」(6.1%)と続いている。

◎前回調査との比較 (前回：平成26年6月実施「歯と健康」)

	ほぼ満足している	やや不満だが日常生活には困らない	不自由や苦痛を感じている
令和4年度(n=492)	42.5	51.4	6.1
平成26年度(n=468)	41.7	50.9	7.5

◎現在の歯と口の健康状態（属性別）

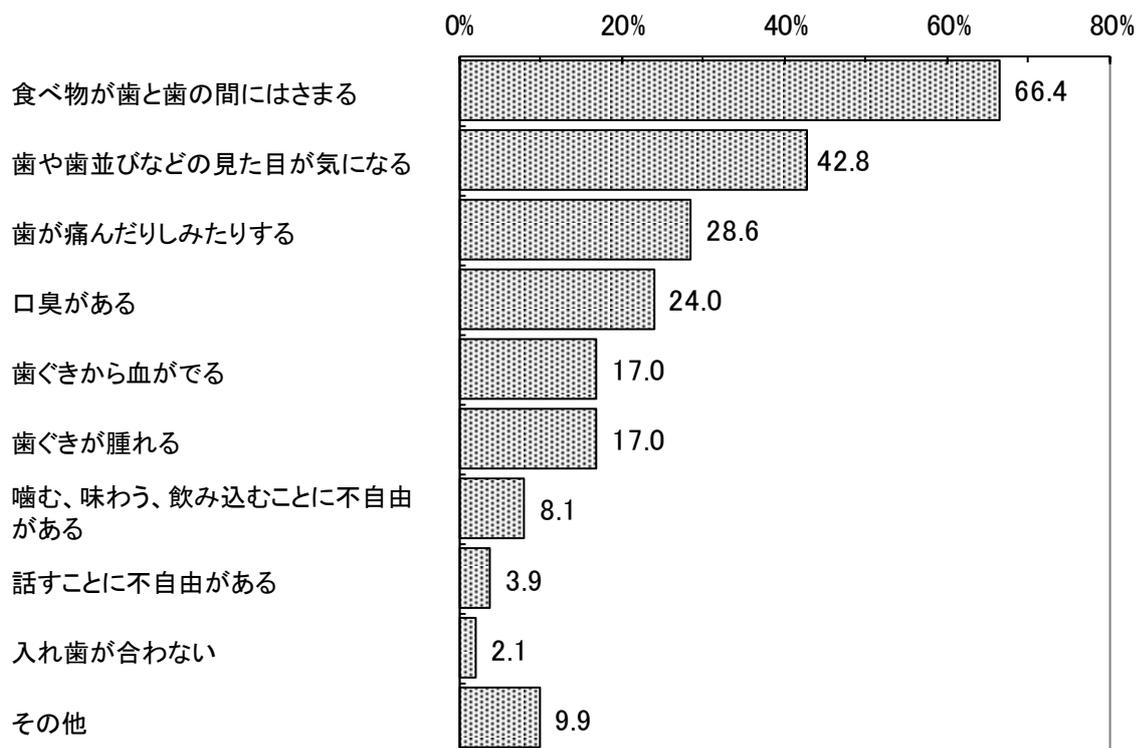


歯と口の健康に満足していない理由

Q4 Q3で「やや不満だが日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じている」を選択した方に伺います。

具体的にどのような不満、不自由、苦痛等を感じていますか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

MA (n=283)



【調査結果の概要】

歯と口の健康に満足していない理由について聞いたところ、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」(66.4%)が7割近くで最も高く、以下、「歯や歯並びなどの見た目が気になる」(42.8%)、「歯が痛んだりしんだりする」(28.6%)などと続いている。

現在の歯の数

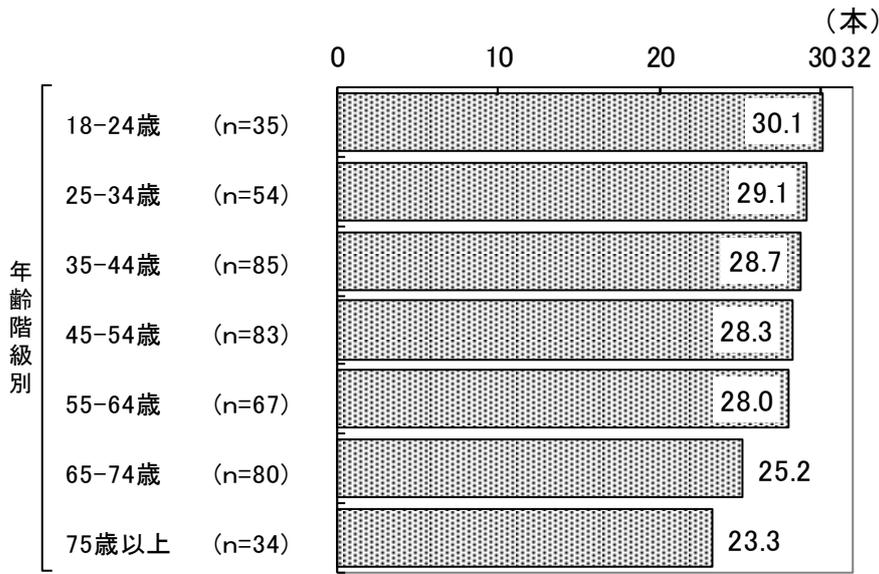
Q 5 あなたの歯の数は、現在、どのくらいありますか。

※永久歯は、「親知らず」が4本全て生えると、全部で32本です。

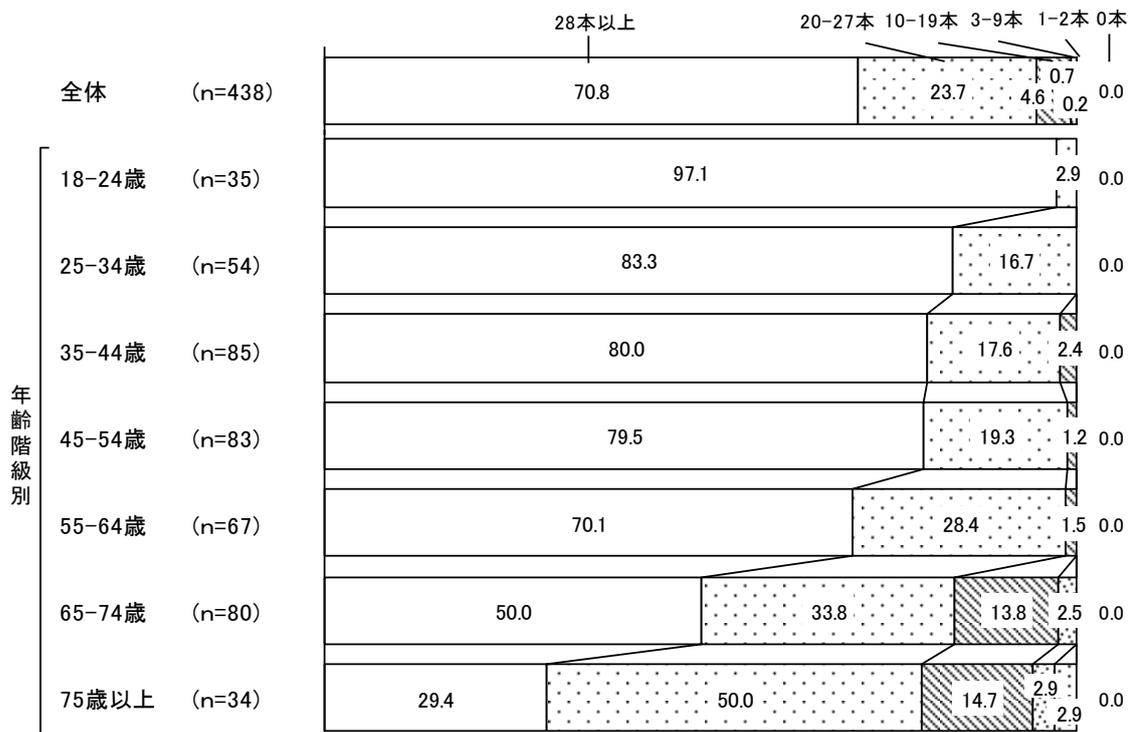
※歯の根があれば、詰め物やかぶせ物があっても本数に含めます。

(n=438)

◎歯の本数の平均（年齢階級別）



◎歯の本数の割合（年齢階級別）



【調査結果の概要】

現在の歯の本数について聞いたところ、歯の本数の平均では、18-24歳で「30.1本」、75歳以上で「23.3本」だった。

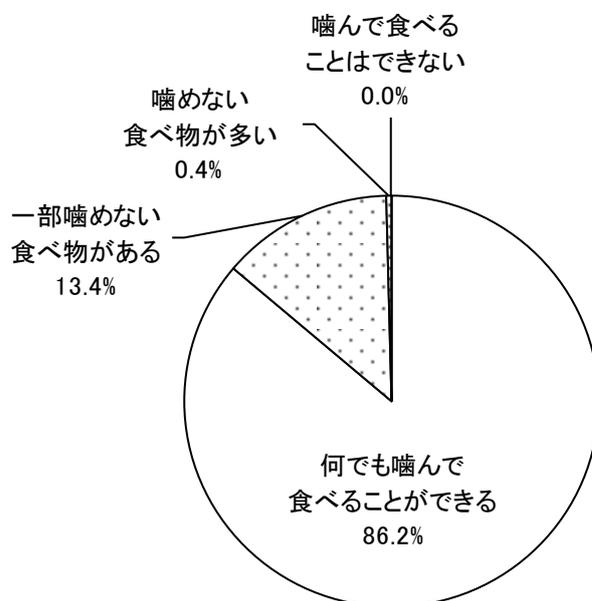
歯の本数の割合では、65-74歳で「28本以上（50.0%）」が約5割となり、55-64歳と比較して割合が大きく減少した。また、「10-19本（13.8%）」は1割半ばとなり、55-64歳と比較して割合が大きく増加した。

なお、「0本」はどの年齢階級にもなかった。

嚙んで食べる時の状態

Q6 あなたが食事を嚙んで食べる時の状態として、当てはまるものはどれですか。

(n = 492)

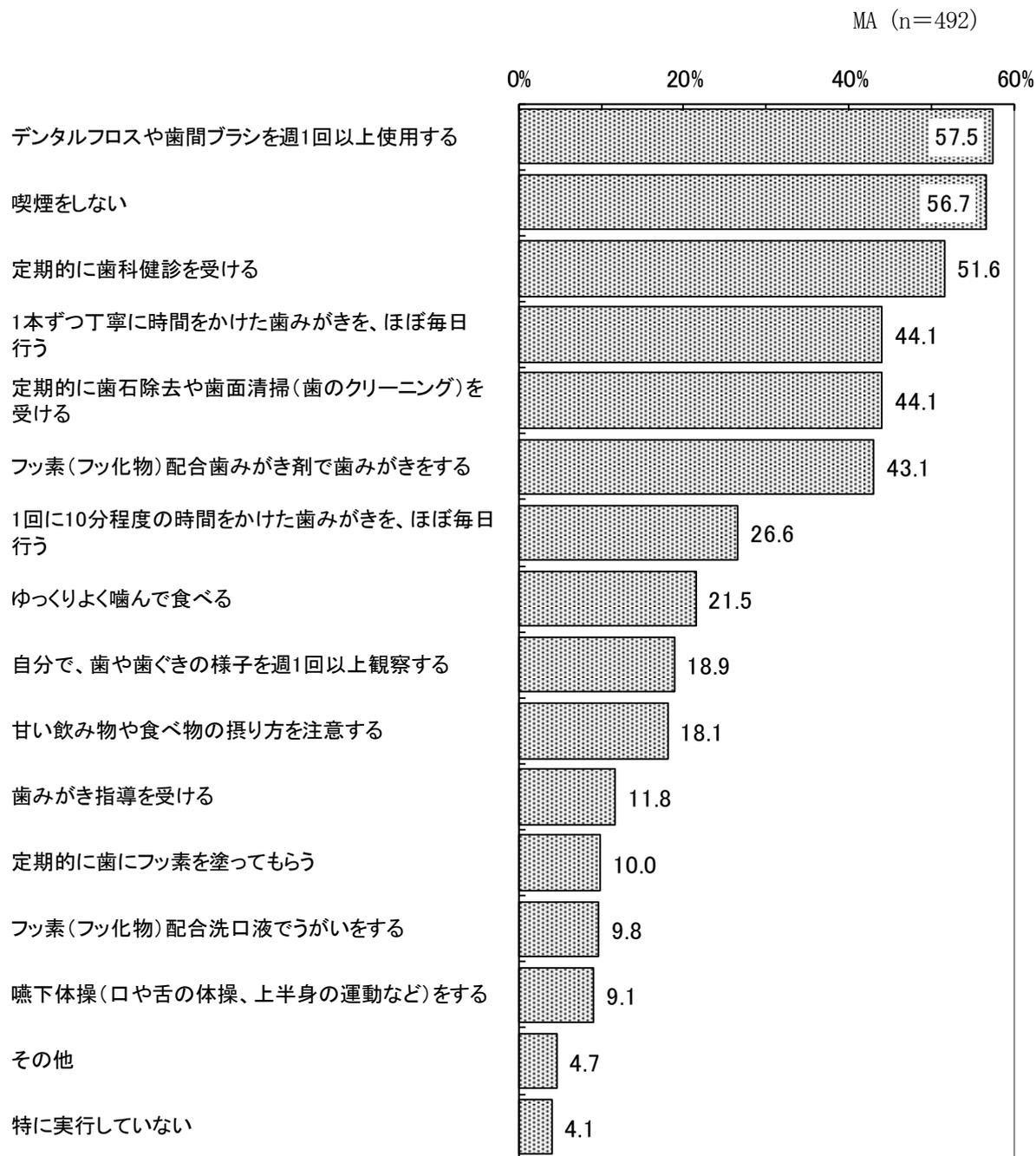


【調査結果の概要】

嚙んで食べる時の状態について聞いたところ、「何でも嚙んで食べることができる」(86.2%)が8割半ばで最も高く、以下、「一部嚙めない食べ物がある」(13.4%)、「嚙めない食べ物が多い」(0.4%)と続いている。

歯と口の健康を維持するために実行していること

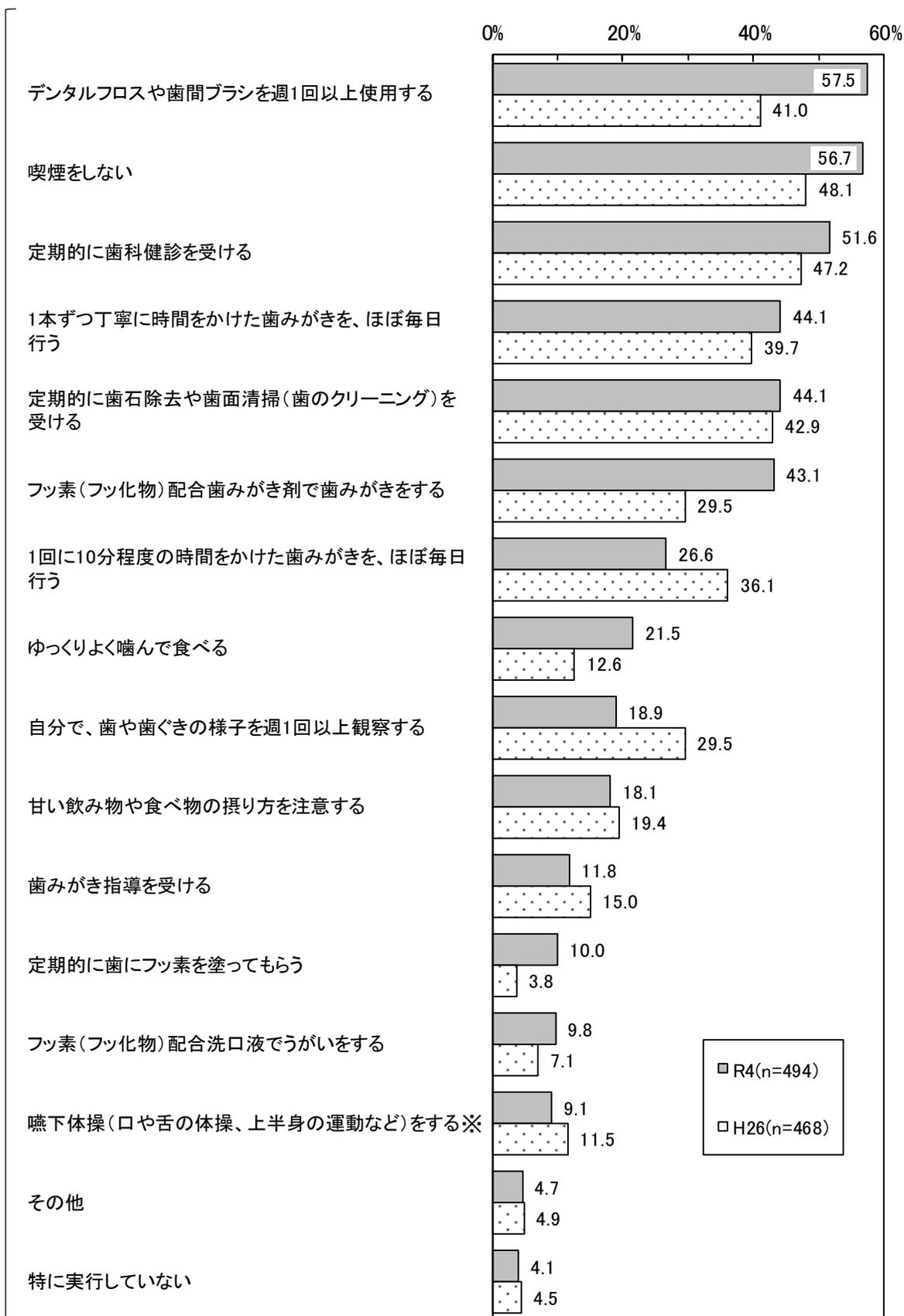
Q7 あなたが、歯と口の健康を維持するために実行していることは何ですか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。



【調査結果の概要】

歯と口の健康を維持するために実行していることを聞いたところ、「デンタルフロスや歯間ブラシを週1回以上使用する」(57.5%)が6割近くで最も高く、以下、「喫煙をしない」(56.7%)、「定期的に歯科検診を受ける」(51.6%)などと続いている。

◎前回調査との比較 (前回：平成26年6月実施「歯と健康」)

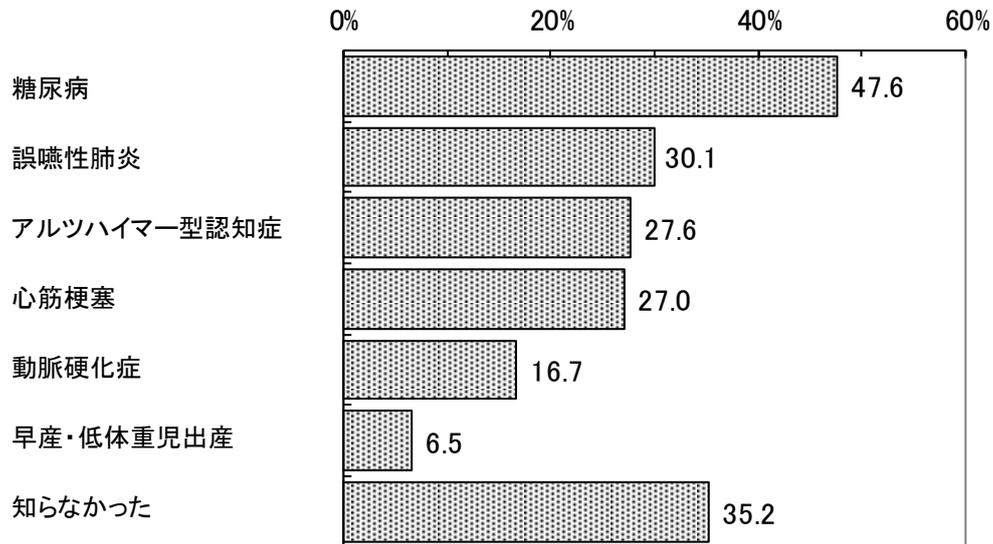


※ 平成26年度は、「口や舌の体操をする」「上半身の運動をする」を分けて集計。本割合は、両結果の合算。

歯と口の健康と全身の健康との関わりに対する認知

Q 8 歯周病は歯を失う原因だけでなく、全身の健康とも深い関わりがあります。歯周病と関係がある病気として、あなたが知っているものは何ですか。次の中からいくつかでも選んでください。

MA (n=492)



【調査結果の概要】

歯周病と関係がある病気として、知っているものは何か聞いたところ、「糖尿病」(47.6%)が5割近くで最も高く、以下、「誤嚥性肺炎」(30.1%)、「アルツハイマー型認知症」(27.6%)などと続いている。

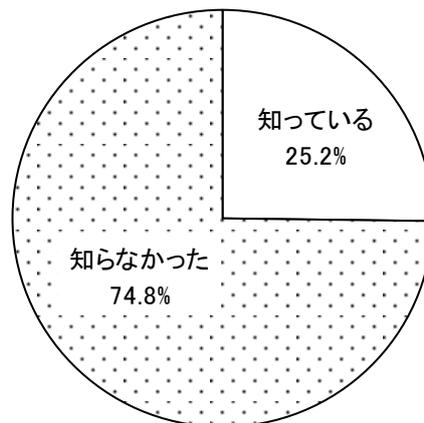
なお、「知らなかった」(35.2%)は3割半ばであった。

周術期の口腔ケアの認知度

Q 9 あなたは、周術期に口腔ケアを行うことが、手術中や手術後の肺炎や感染のリスクを減らし、回復を助ける効果があることを知っていますか。

周術期とは
がんなどの手術において、「病気が判明した後、治療方針に沿って手術・治療を受け、その後回復するまでの期間」のこと。

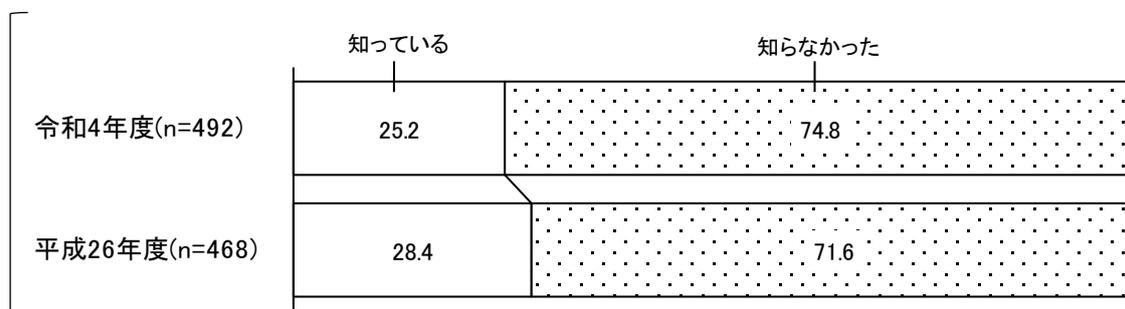
(n=492)



【調査結果の概要】

周術期の口腔ケアの認知度について聞いたところ、「知っている」(25.2%)が2割半ばで、「知らなかった」(74.8%)は7割半ばであった。

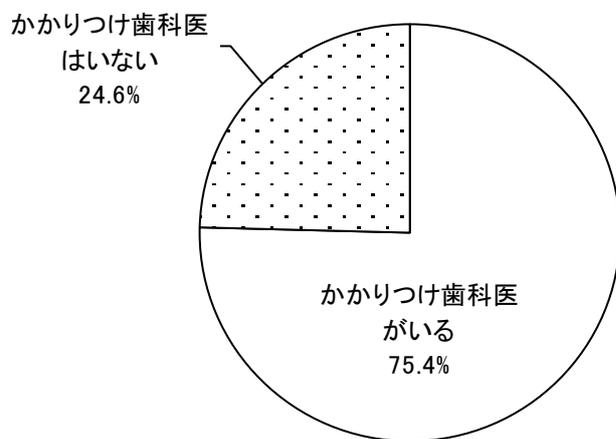
◎前回調査との比較 (前回：平成26年6月実施「歯と健康」)



かかりつけ歯科医の有無

Q10 あなたは、常日頃から受診している、かかりつけ歯科医がいますか。

(n=492)



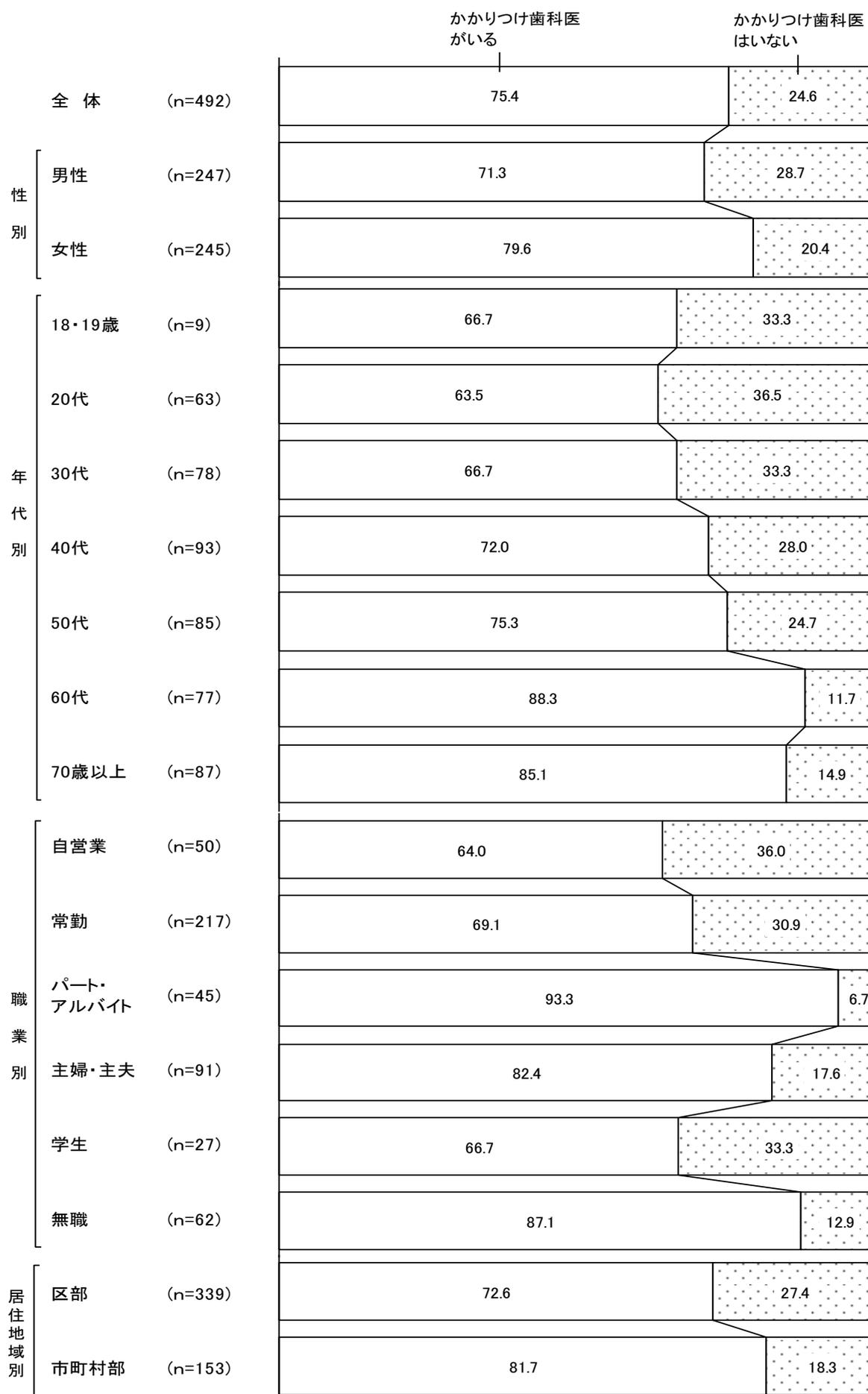
【調査結果の概要】

かかりつけ歯科医の有無について聞いたところ、「かかりつけ歯科医がいる」(75.4%)が7割半ばで、「かかりつけ歯科医はいない」(24.6%)は2割半ばであった。

◎前回調査との比較 (前回：平成26年6月実施「歯と健康」)

	かかりつけ歯科医 がいる	かかりつけ歯科医 はいない
令和4年度(n=492)	75.4	24.6
平成26年度(n=468)	72.0	28.0

◎かかりつけ歯科医の有無（属性別）

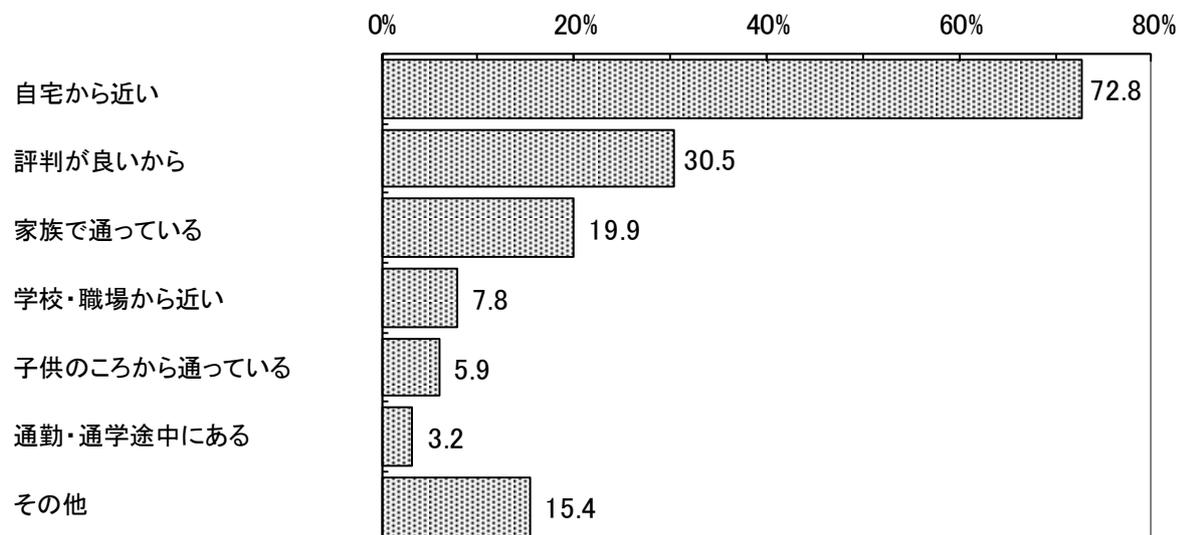


かかりつけ歯科医を決めた理由

Q11 Q10で「かかりつけ歯科医がいる」を選択した方に伺います。

あなたが、今の歯科医をかかりつけ歯科医に決めた理由は何ですか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

MA (n=371)



【調査結果の概要】

Q10で「かかりつけ歯科医がいる」を選択した方に、今のかかりつけ歯科医に決めた理由について聞いたところ、「自宅から近い」(72.8%)が7割を超えて最も高く、以下、「評判が良い」(30.5%)、「家族で通っている」(19.9%)などと続いている。

◎ その他の主な意見

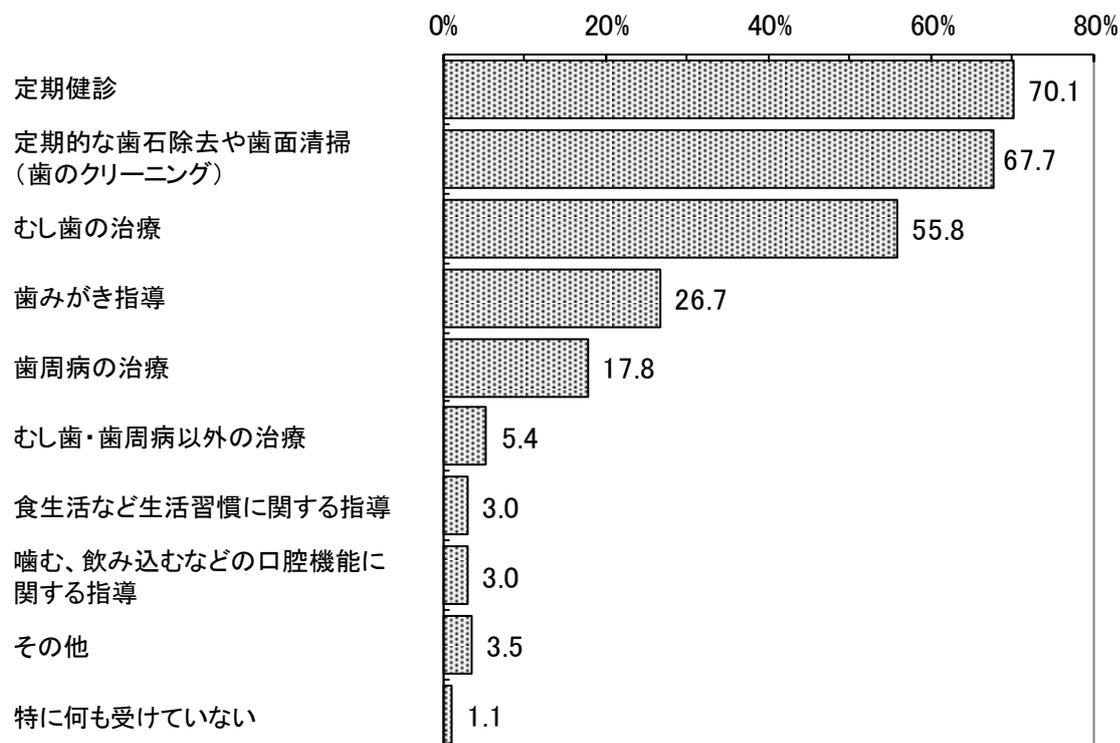
- ・ 友人、知人からの紹介
- ・ 信頼できる歯科医だったから (丁寧な説明、施術等)

かかりつけ歯科医で受けていること

Q12 Q10で「かかりつけ歯科医がいる」を選択した方に伺います。

あなたは、普段、かかりつけ歯科医で、どのような処置を受けていますか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

MA (n=371)



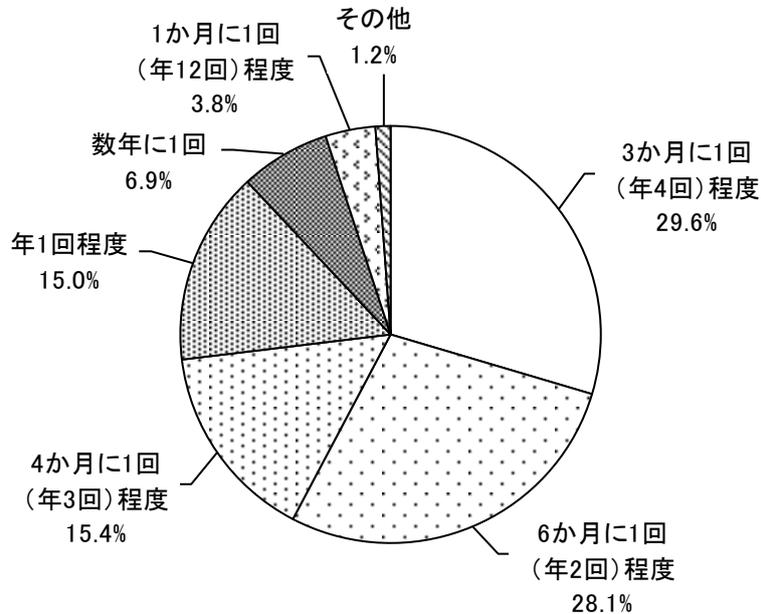
【調査結果の概要】

Q10で「かかりつけ歯科医がいる」を選択した方に、普段、かかりつけ歯科医で、どのような処置を受けているか聞いたところ、「定期健診」(70.1%)が約7割で最も高く、以下、「定期的な歯石除去や歯面清掃 (歯のクリーニング)」(67.7%)、「むし歯の治療」(55.8%)などと続いている。

かかりつけ歯科医での定期健診の頻度

Q13 Q12で「定期健診」を選択した方に伺います。
あなたは、定期健診をどのくらいの頻度で受けていますか。

(n=260)



【調査結果の概要】

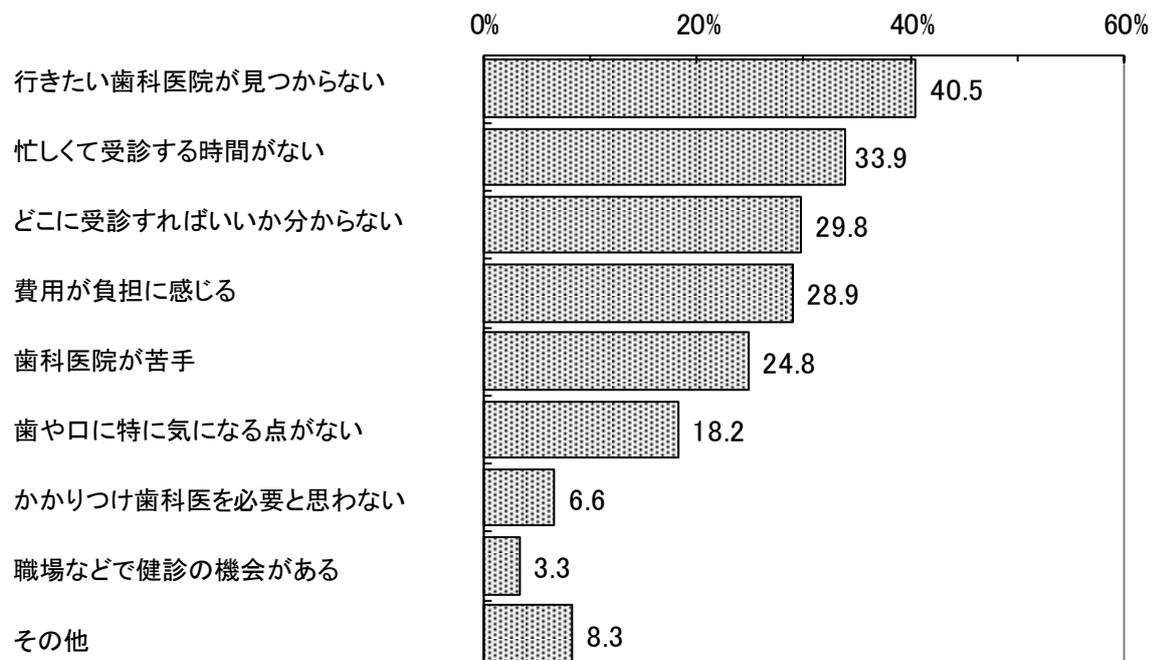
Q12で「定期健診」を選択した方に、かかりつけ歯科医での定期健診の頻度について聞いたところ、「3か月に1回（年4回）程度」（29.6%）が約3割で最も高く、以下、「6か月に1回（年2回）程度」（28.1%）、「4か月に1回（年3回）程度」（15.4%）などと続いている。

かかりつけ歯科医を決めていない理由

Q14 Q10で「かかりつけ歯科医はいない」と選択した方に伺います。

あなたが、かかりつけ歯科医を決めていない理由は何ですか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

MA (n=121)



【調査結果の概要】

Q10で「かかりつけ歯科医はいない」を選択した方に、かかりつけ歯科医を決めていない理由について聞いたところ、「行きたい歯科医院が見つからない」(40.5%)が約4割で最も高く、以下、「忙しくて受診する時間がない」(33.9%)、「どこに受診すればいいかわからない」(29.8%)などと続いている。

歯と口の健康について（自由意見）

Q15 歯と口の健康について気を付けたいことや歯と口の健康全般について、あなたの意見を自由にお書きください。

(n=473)

- | | |
|------------------------|-------|
| (1) 歯と口の健康のために心掛けていること | 189 件 |
| (2) 歯と口の健康状態に関すること | 94 件 |
| (3) 歯科検診・定期健診に関すること | 76 件 |
| (4) 情報発信、啓発に関すること | 60 件 |
| (5) 歯科医・歯科医院に関すること | 46 件 |
| (6) その他 | 8 件 |

（主なご意見）

（1） 歯と口の健康のために心掛けていること 189 件

- 年を取っても自分の歯がある状態を心がけている。マスクを着用することが日常になったので、口臭ケアを以前よりも心がけるようになった。
(女性 20代 新宿区)
- 歯は大切と小さい頃から教わって育ってきました。噛んで食べるのが健康を維持する上で重要だと考えているので、とにかく1本でも多く歯を残して生きていけるよう心掛けています。
(女性 20代 小平市)
- 「病気は防げないが、虫歯は防げる」と昔から親に言われて育ったので、歯みがきは日々頑張っている。真面目に取り組んで努力が報われる数少ないものの一つだと思う。
(女性 30代 千代田区)
- 毎日の歯みがきと定期検診を心掛ける。
(男性 30代 新宿区)
- 歯石と口臭が気になるので、普段から歯みがき時に洗口液も利用することと、舌の上を軽く拭って舌苔ぜったいをある程度取ることと、数日ごとにフロスを使用することを意識しています。
また、半年に1度の歯科検診と歯石除去クリーニングをしていただいています。これで問題なく過ごしているので、これが一番良い方法だと思っています。
(男性 40代 三鷹市)
- 口の健康のために、毎日口や舌を動かす運動をしている。スムーズな嚥下えんげのためにも、効果的であると感じる。
(女性 50代 港区)

- 朝と昼と夜の1日3回の食後の歯みがきを欠かさず実行しています。1回に3分間以上磨いています。磨き終わったら、歯間ブラシで歯と歯の隙間を磨きます。
(男性 50代 八王子市)
- ブラッシングやデンタルフロスなどで日常的に口腔ケアを行うことはもちろん、歯科医にて定期健診やクリーニングを定期的に行うことにより、口腔内の健康を維持している。いつまでも自分の歯を維持したいし、そのことが歯と口以外の健康にもつながることが分かっているから。
(女性 60代 練馬区)
- 日中は歯をかみしめないようにし、就寝中は歯ぎしりをしないようにナイトガードを付けることで、歯を大事にしている。
(男性 60代 三鷹市)
- 子育て中に忙しさにかまけて、虫歯を作ってしまったし、いくつかを義歯にせざるを得なくなった苦い経験から、歯の大切さを痛感いたしました。今はこれ以上減らさないためにも、食べ物に気を付けるのと、食べたらずぐに歯を磨くことを習慣化しています。
(女性 70歳以上 多摩市)

(2) 歯と口の健康状態に関すること 94件

- 歯は若い頃から注意しなければならず、30代後半になってから気を付け始めたが、すでに遅かった。
(男性 40代 新宿区)
- マスク生活が続くことで、口を動かさないでいることが多くなっています。唾液の量も減っていたり、口の周りの筋肉も衰えていたり、健康面で影響は出て来そうなので、歯と口の健康については気を付けたいと思っています。
(男性 50代 西東京市)
- 歯周病予防の歯ぐきマッサージや歯間ブラシなど、歯みがき以外にも歯のケアをした方がいいとは思いますが、やり方が分からないのと時間がないので出来ていません。毎日の歯みがきだけで歯の健康は保てないのかが心配です。
(女性 60代 国立市)
- 後期高齢者の私にとっては、歯と口の健康はとても大切なことです。もう少し若い頃から歯の治療を受けておけばよかったと思っています。
(男性 70歳以上 文京区)
- これまでの人生で大きく後悔しているのが「自分の歯」の件です。予防、早期治療等をどうして真剣にしなかったかと毎日のように考えます。
(女性 70歳以上 墨田区)

(3) 歯科検診・定期健診に関すること 76件

- 8020運動のように、高齢者になっても自分の歯が残ることの重要性が言われていましたが、最近では、口内環境が全身の病気に影響を及ぼしていると聞き、歯と口の健康の重要性を感じています。同年代の友人は、定期健診を受けていない方も少なくなく、まだまだ社会全体の周知には至っていないのかなと思います。企業の健康診断に取り入れるなど、もっと簡易的に健診ができる環境があればいいかと思います。(男性 20代 新宿区)
- 歯の検診について、タイミングが分からない。(女性 20代 世田谷区)
- 以前は歯が痛くならないと歯医者に行こうと思わなかったが、歯の健康が体の健康にもつながっていると知り、定期健診や歯石除去を受けるようになった。(女性 30代 千代田区)
- 定期健診で「歯は治療ではなく予防」と教わりました。日本は欧米に比べて予防の意識が低いとも教わりました。確かに「歯が痛いから歯医者に行く」というのが通常を考え方な気がします。「歯が痛くなってからでは手遅れ」という認識を、全員が持ったほうがいいと思いました。働いていると年1回の健康診断が義務付けられていますが、そこに歯科健診も含められないかなどと思いました。(男性 40代 江東区)
- 虫歯の治療の時に「定期検診も受けてくださいね」と伺ったのにも関わらず、コロナ禍で足が遠のいてしまい、受診するタイミングを逃している。ただ、痛くなってからでは遅いという意識はあるので、今年中には受診しようと思う。(女性 40代 大田区)
- 若い時に歯を何本も失ったので、もう二度と失敗しないと心に決め、定期検診をして歯を大切にしている。(男性 70歳以上 品川区)
- 元々歯並びがよくないので、定期的に歯科医に診てもらい、歯石除去、歯垢除去、色素除去などをしてもらっている。これからもずっと気を付けていくつもりです。これは、2人とも総入れ歯だった両親を反面教師にしてのことです。若い頃から歯には気を付けた方がいいと思います。(女性 70歳以上 品川区)

(4) 情報発信、啓発に関すること 60件

- 8020 運動と言われるほど、歯と口の健康は非常に大事だと思っている。自分自身も、歯科矯正・親知らずの抜歯を経験した。現在も定期的に、歯科検診を行いフッ素コーティングや歯石除去を受けている。忘れがちだが、食いしばり噛み締め対策も重要となってくると思う。私は定期的に歯科医院に行き、専用のマウスピースを作ってもらっている。

このような対策も必要だと、啓発していってほしい。

(男性 20代 台東区)

- 失ってから大切さに気づきました。調子が悪いとご飯が食べられず、全身の健康につながるので、普段からケアを行い、大切にしたいと思っています。大人になってから歯ブラシだけでなく、フロスの重要性を知りました。小学生の健診でフロスの使い方も指導いただけたら、もっと身近になるのではないのでしょうか。

(女性 30代 杉並区)

- 歯並びが悪いため、歯周病や虫歯になりやすい状態で、子供の頃に矯正をした方がよかったのにと、よく歯科医に言われます。歯と口の健康についての教育(親も含む)をもっと積極的に行なっていただきたいです。

(女性 40代 板橋区)

- 歯と口の健康が重要との意識を持っている都民の方々は、少ないのではないのでしょうか。もっと分かりやすい啓発をしていただければと思います。

(男性 50代 荒川区)

- 虫歯は様々な病気の元になるので、「虫歯は万病の元」くらいの意識でもいいと思います。それを若年層から高齢者まで広めていただければと思います。

(男性 60代 豊島区)

- 歯と口の管理(歯みがき等)が、体への健康に関連していることを知らない人が多いと思います(自分も最近まで知らなかった)。歯みがき等の管理の重要性を広めることが大切だと思います。小中学校での検診の前に、歯みがきの仕方を兼ねた講習会を行ったり、薬局に一目で分かる明瞭なポスターを掲示するなど、できることはあると思います。歯の重要性を訴求することが大切と考えます。

(男性 70歳以上 大田区)

(5) 歯科医・歯科医院に関すること 46件

- 定期的に歯科医に見てもらいたいのは分かっているが、虫歯などがない限り、なかなか行こうという気にならない。また、一度歯科医にかかると、何回も通わねばならなくなるイメージがあり、足が向かない。 (男性 30代 稲城市)
- 歯科医院が多くて、どこが良いか(信頼できるか)判断するのが難しく、なかなか歯科にかからないという人もいるように思います。私がそうです。その背景には、歯科医院の治療方針・品質のばらつきが大きいということを経験的に知っているからです。治療方針の透明化・分かりやすいガイドラインが市民に周知されると、この状況の改善につながるのかなと思います。 (男性 40代 世田谷区)
- 子供の頃は歯の衛生意識に乏しく、たくさんの虫歯があり、放置状態になっていました。今のかかりつけ医に出会ってからは、歯の大切さを実感し、健康に保てるよう心掛けるようになりました。それはその歯科医が、歯を健康に保つことで他の病気を予防し、余計な出費を減らすことになると教えていただいたからです。歯を抜かず、定期健診(歯石除去、フッ素塗布など)で歯の健康を維持していきたいとします。 (男性 50代 町田市)
- 歯は大事だと認識しているので、できれば生涯自分の歯で(入れ歯にならず)生活していけるように、かかりつけ医を見つけて相談しながら歯と口の健康を維持していきたいと考えています。 (女性 50代 日野市)

■ 献血への意識

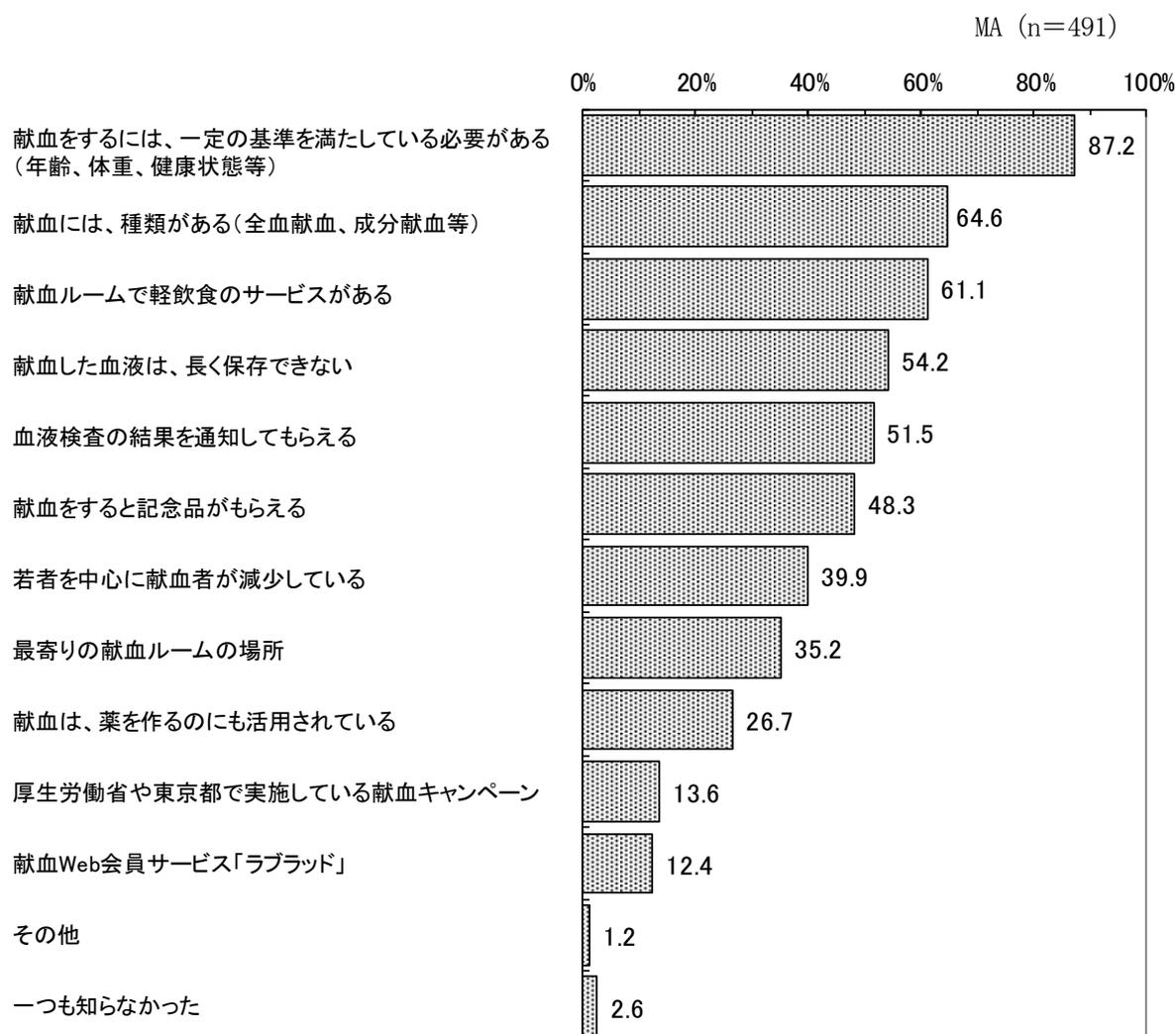
血液は、人工的に造ることも長期間保存することもできません。病気やけがの治療に使われる輸血用血液製剤を安定的に供給するためには、献血への継続的な協力が必要です。

東京都では、献血への理解と継続的な協力を求めるため、ポスター配布や街頭ビジョン・電車内での動画放映等により、献血に関する広報・普及啓発活動を行ってきました。

今回のアンケート調査では、今後の献血の普及啓発推進の参考とするため、献血への意識について、都政モニターの皆様にご意見を伺います。

献血について知っていること

Q16 あなたが献血について知っていることは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。



【調査結果の概要】

献血について知っていることは何か聞いたところ、「献血をするには、一定の基準を満たしている必要がある（年齢、体重、健康状態等）」（87.2%）が9割近くで最も高く、以下、「献血には、種類がある（全血献血、成分献血等）」（64.6%）、「献血ルームで軽飲食のサービスがある」（61.1%）などと続いている。

【参考】献血の基準（東京都赤十字血液センター）

https://www.bs.jrc.or.jp/ktkts/tokyo/donation/m2_01_02_index2.html

【参考】献血 Web 会員サービス「ラブブラッド」（日本赤十字社）

継続的に献血にご協力いただける方をサポートする Web サービス。

会員になると、献血会場の Web 予約や献血記録の確認等が可能。

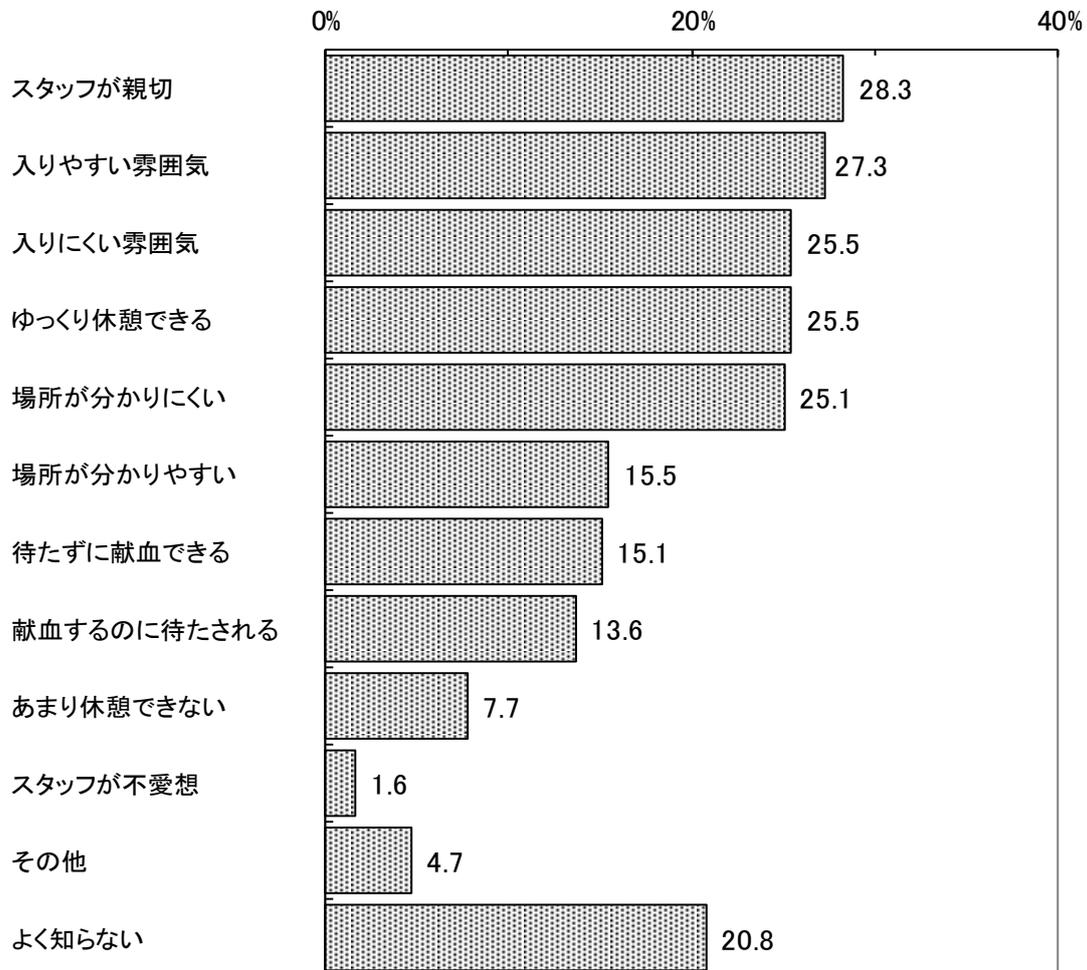
<https://www.jrc.or.jp/donation/club/>

献血ルームのイメージ

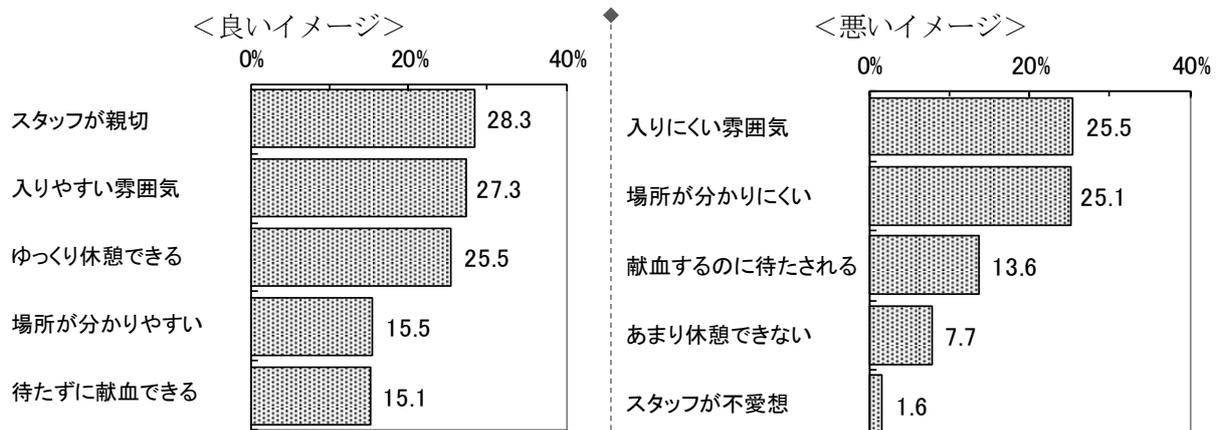
Q17 あなたは献血ルームについて、どのようなイメージを持っていますか。次の中からいくつでも選んでください。

※献血ルーム：都内12か所にある、常設の献血施設

MA (n=491)



◎ (参考) 評価イメージ別集計



【調査結果の概要】

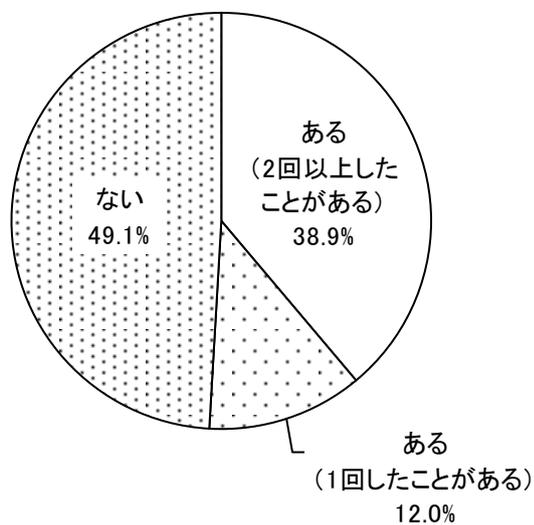
献血ルームのイメージについて聞いたところ、「スタッフが親切」(28.3%)が3割近くで最も高く、以下、「入りやすい雰囲気」(27.3%)、「入りにくい雰囲気」「ゆっくり休憩できる」(同25.5%)などと続いている。

なお、「よく知らない」(20.8%)は約2割であった。

献血の経験

Q18 あなたは、献血をしたことがありますか。

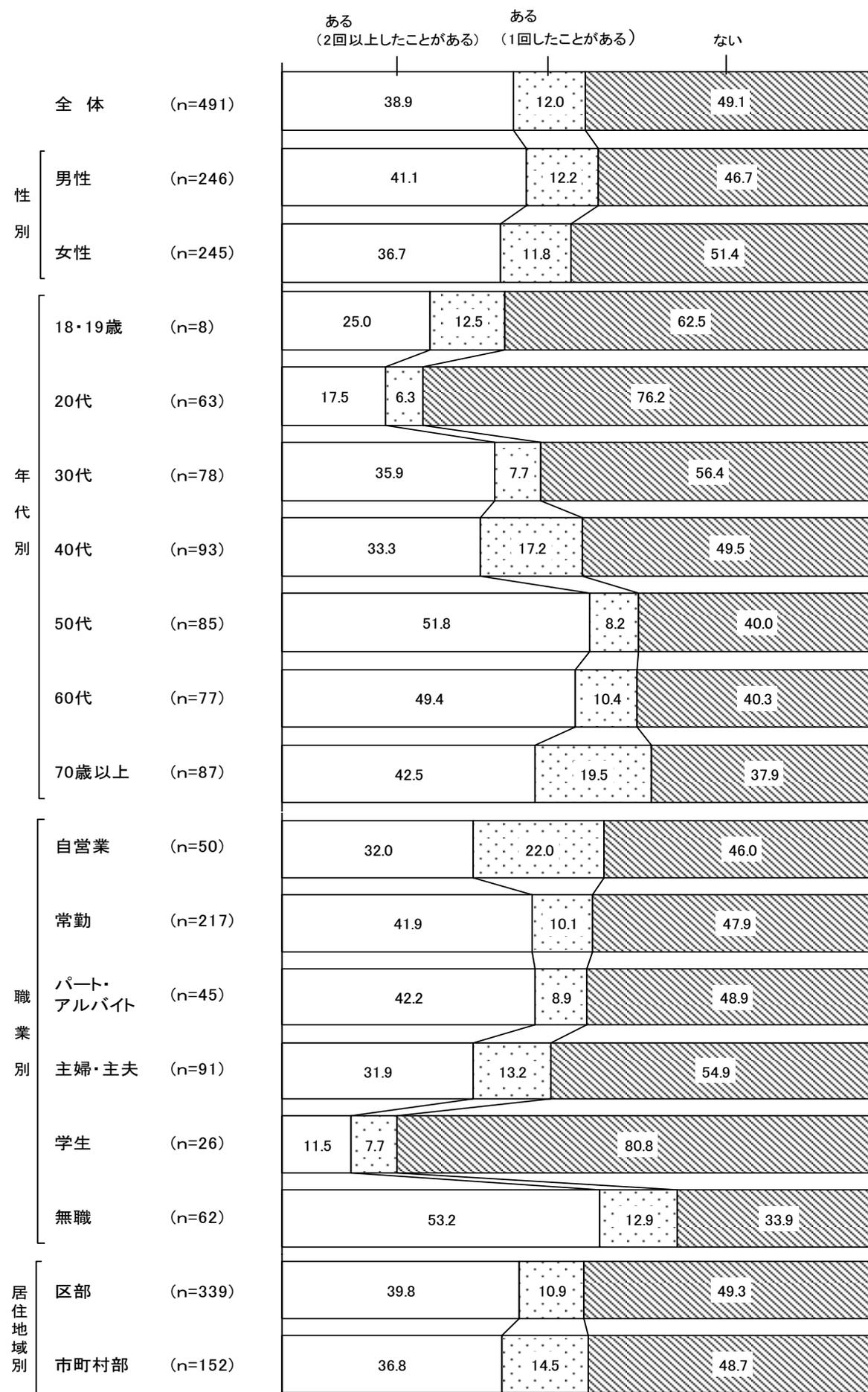
(n=491)



【調査結果の概要】

献血の経験について聞いたところ、『ある』(50.9%) (「ある (2回以上したことがある)」(38.9%)、「ある (1回したことがある)」(12.0%)) が約5割で、「ない」(49.1%) も約5割であった。

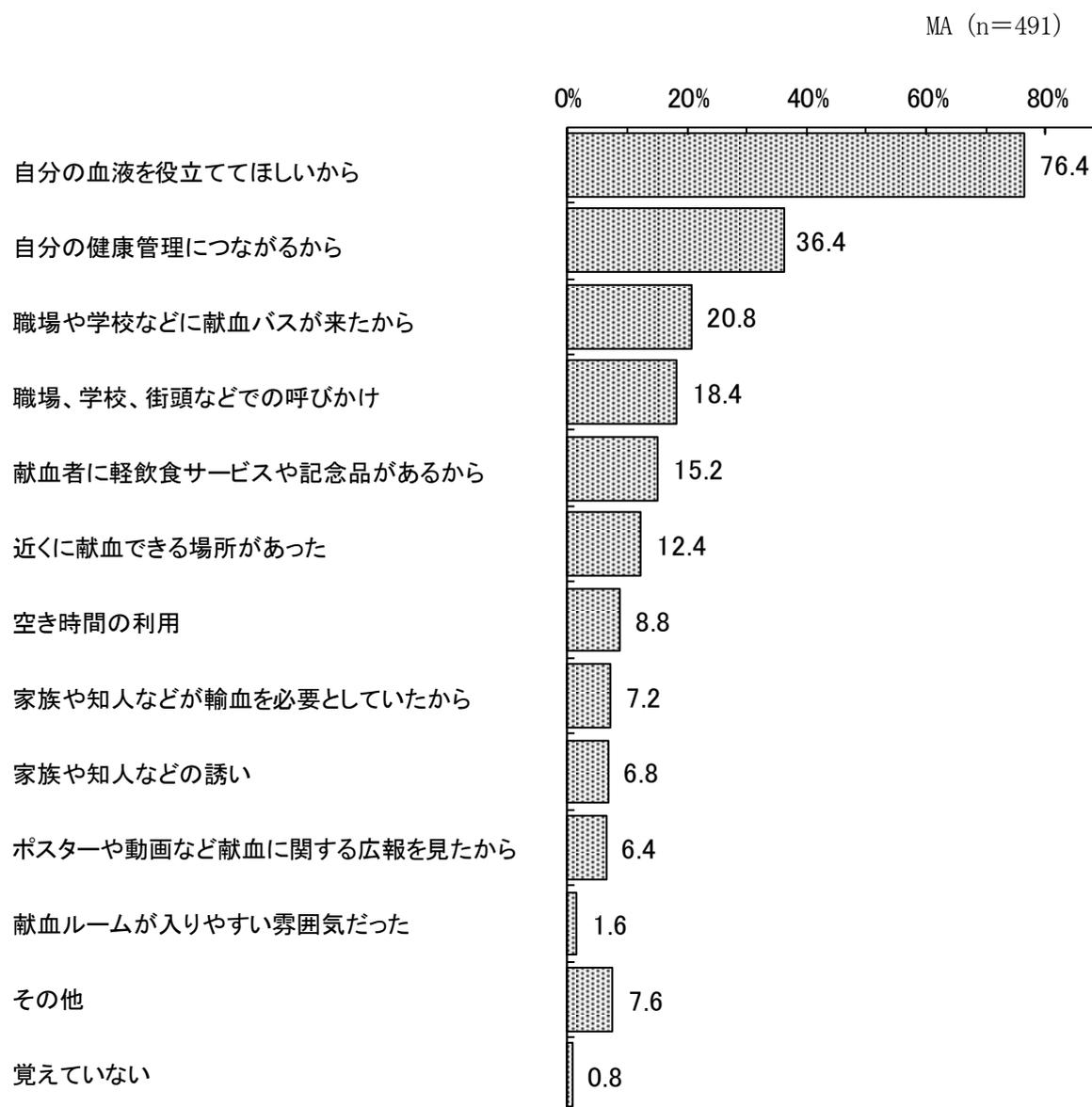
◎献血の経験（属性別）



献血をしたきっかけ

Q19 Q18で「ある（2回以上したことがある）」、「ある（1回したことがある）」を選択した方に伺います。

あなたが献血をしようと思ったきっかけは何ですか。次の中から3つまで選んでください。



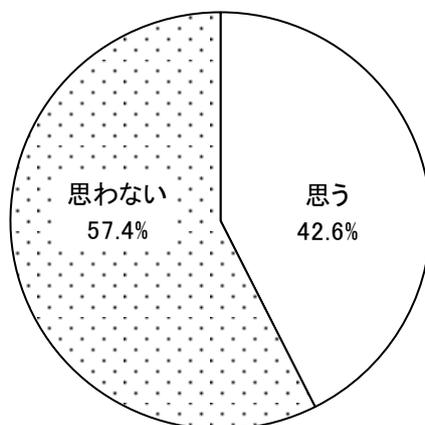
【調査結果の概要】

Q18で「ある（2回以上したことがある）」、「ある（1回したことがある）」を選択した方に、献血をしたきっかけについて聞いたところ、「自分の血液を役立ててほしいから」（76.4%）が7割半ばで最も高く、以下、「自分の健康管理につながるから」（36.4%）、「職場の学校などに献血バスが来たから」（20.8%）などと続いている。

今後の献血の意向

Q20 あなたは今後、献血をしようと思いますか。

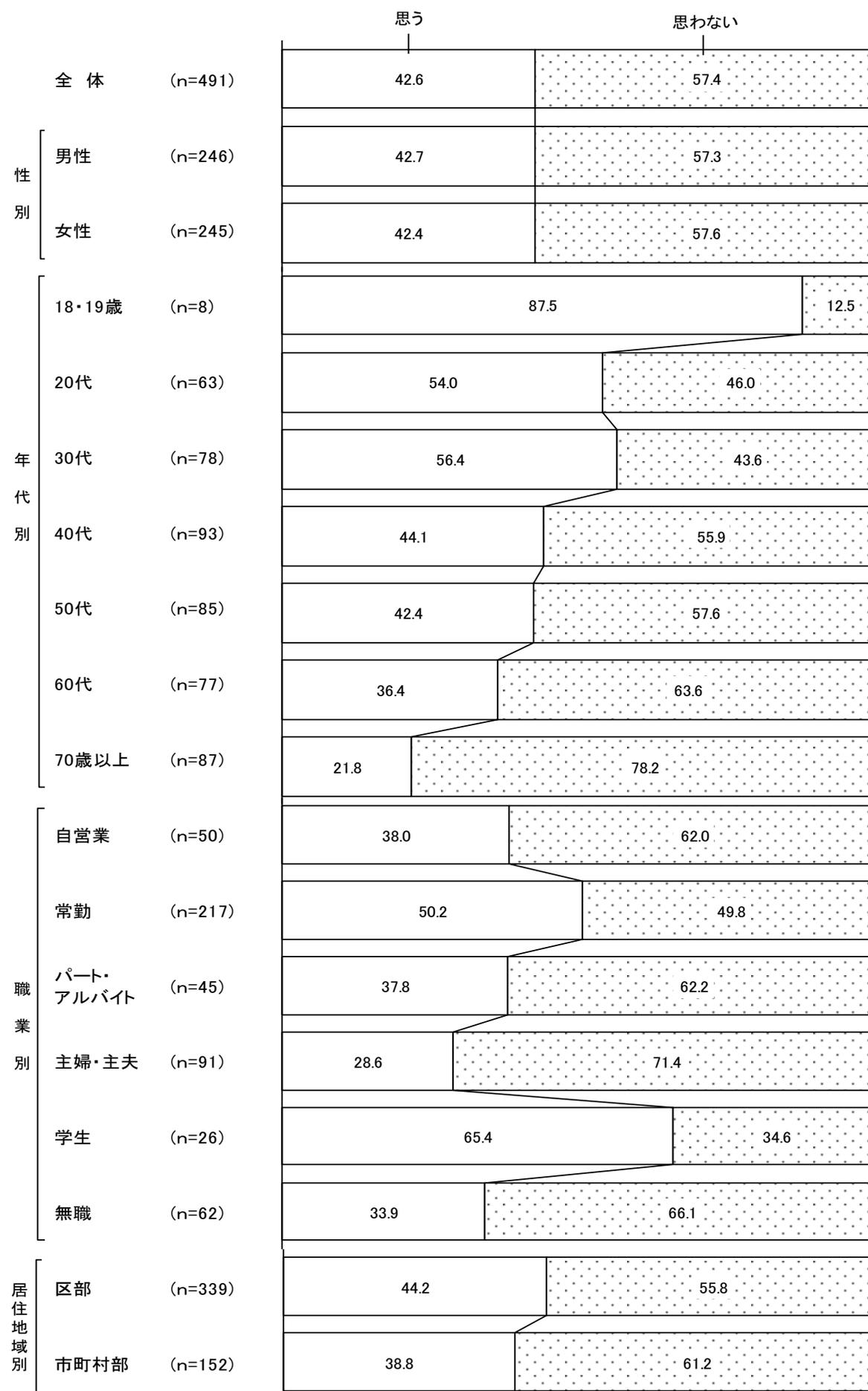
(n=491)



【調査結果の概要】

今後、献血をしようと思うか聞いたところ、「思う」(42.6%)が4割超で、「思わない」(57.4%)も6割近くであった。

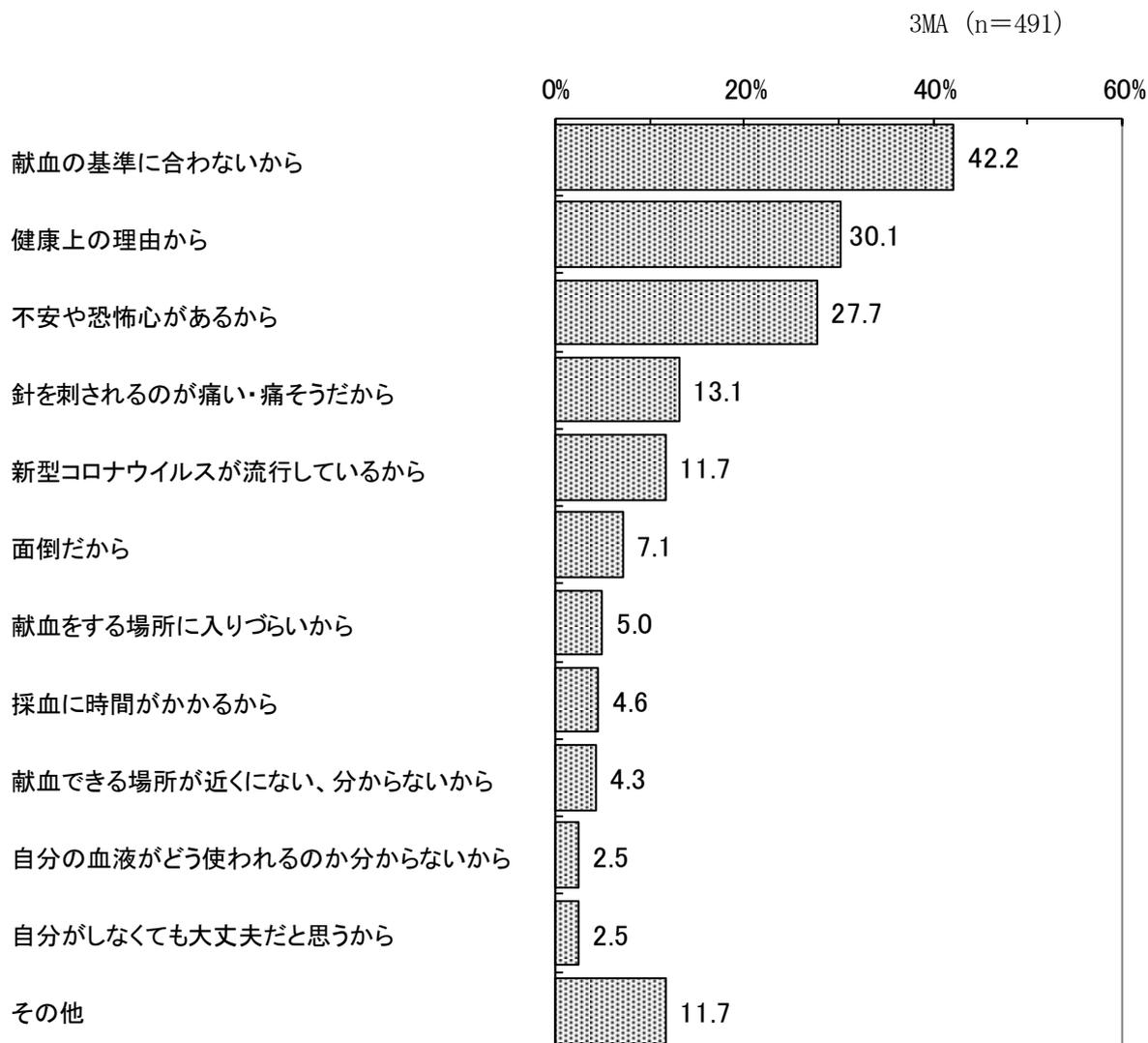
◎今後の献血の意向（属性別）



献血をしようと思わない理由

Q21 Q20で「思わない」を選択した方に伺います。

あなたが献血をしようと思わない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。



【調査結果の概要】

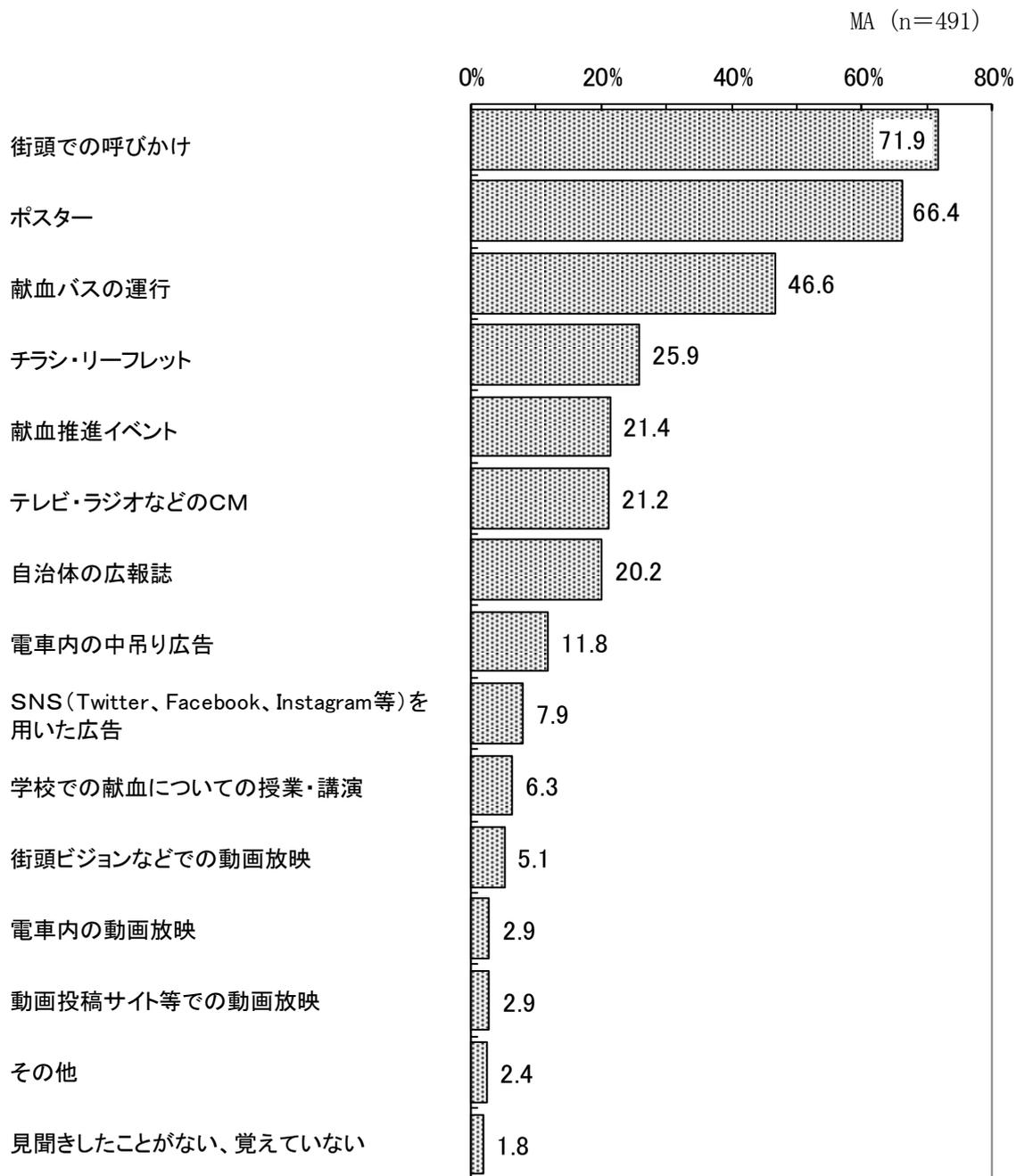
Q20で「思わない」を選択した方に、献血をしようと思わない理由について聞いたところ、「献血の基準に合わないから」(42.2%)が4割を超えて最も高く、以下、「健康上の理由から」(30.1%)、「不安や恐怖心があるから」(27.7%)などと続いている。

◎ その他の主な意見

- ・ 病歴により献血できないから
- ・ 衛生面が気になるから

知っている献血の広報・普及啓発活動

Q22 あなたが見たり聞いたりしたことがある献血の広報・普及啓発活動は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

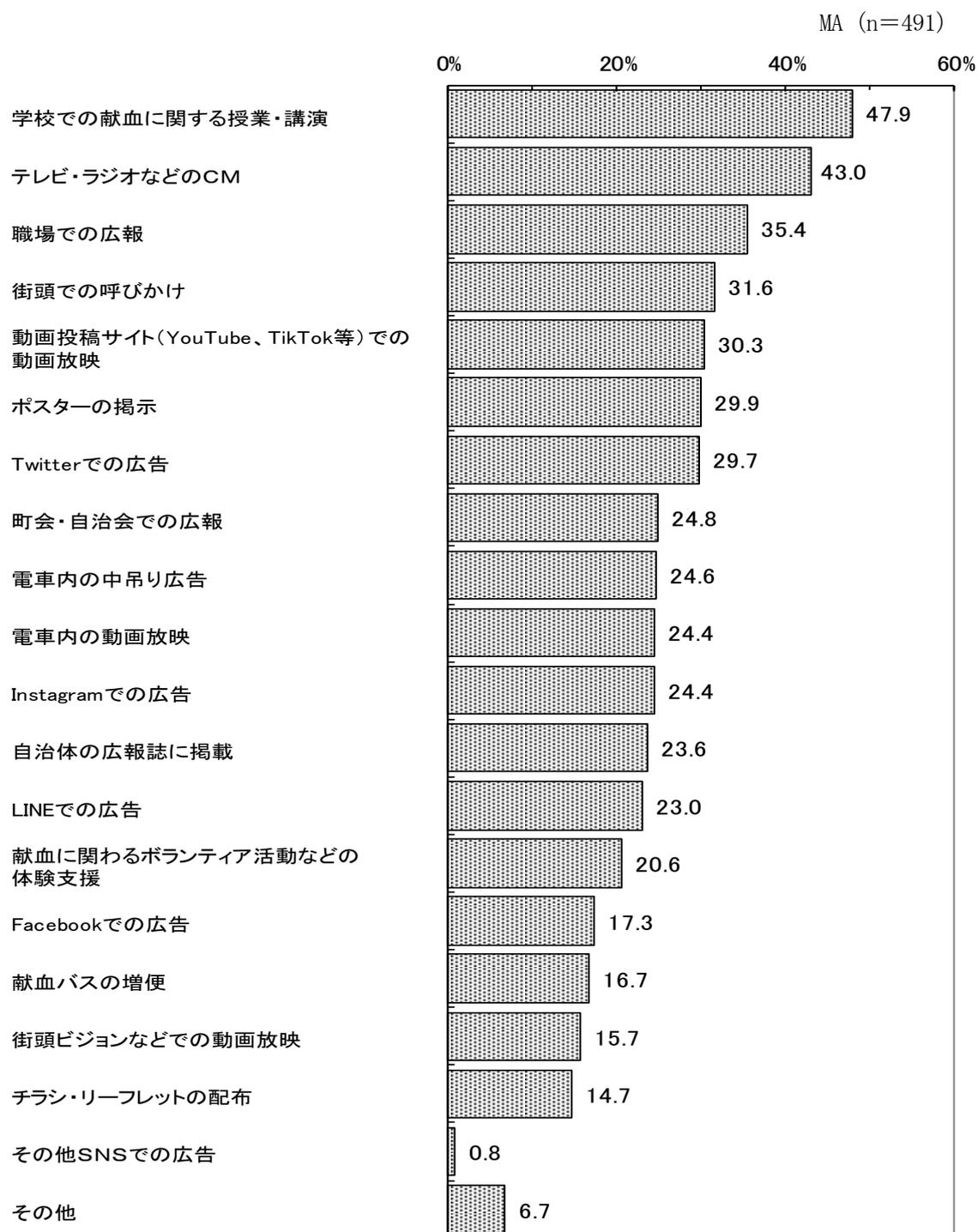


【調査結果の概要】

知っている献血の広報・普及啓発活動について聞いたところ、「街頭での呼びかけ」(71.9%)が7割を超えて最も高く、以下、「ポスター」(66.4%)、「献血バスの運行」(46.6%)などと続いている。

献血の広報・普及啓発活動として効果的と思うもの

Q23 あなたは、より多くの人が献血をするためには、どのような広報・普及啓発活動が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。



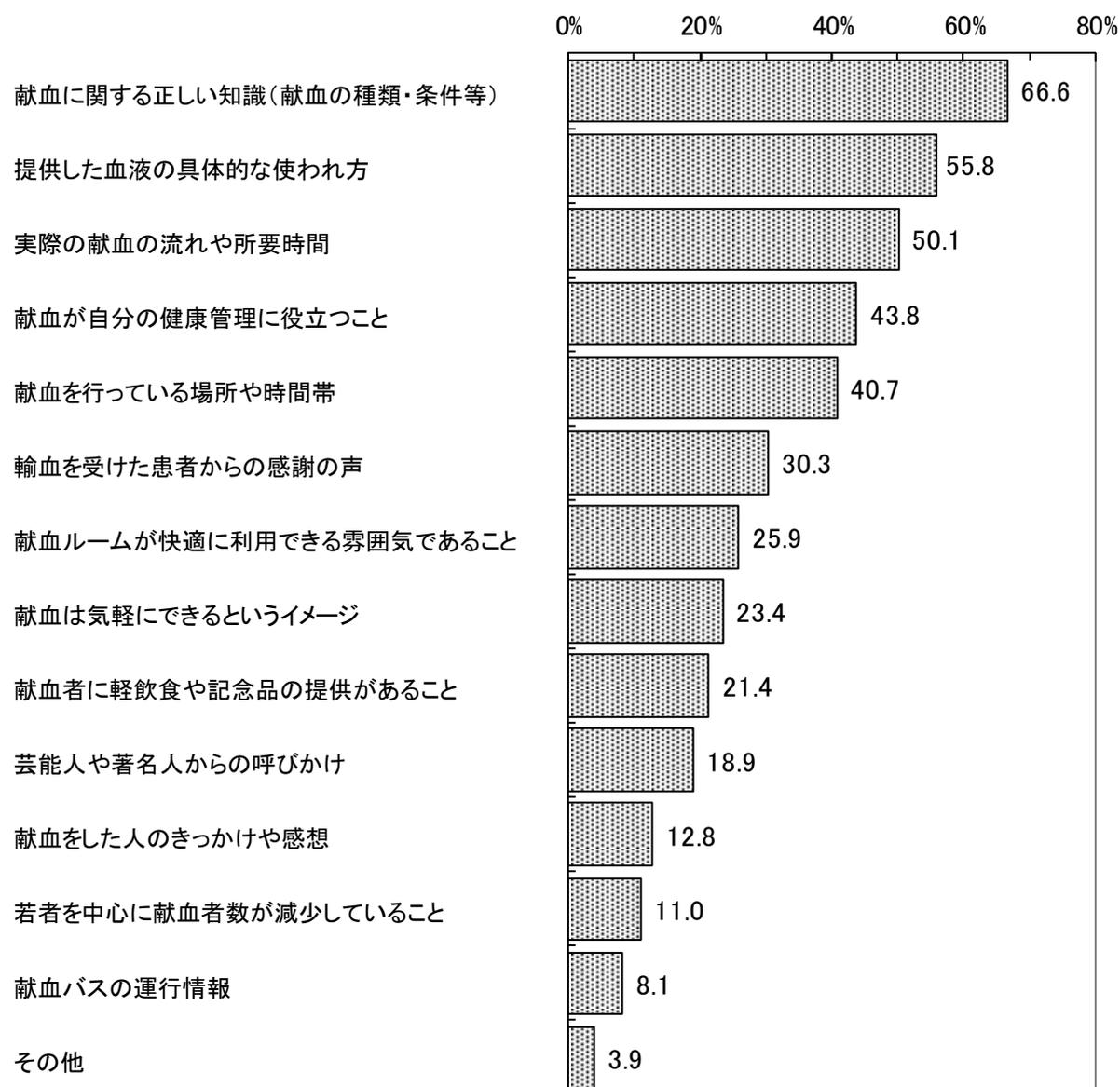
【調査結果の概要】

献血の広報・普及啓発活動として効果的と思うものについて聞いたところ、「学校での献血に関する授業・講演」(47.9%)が5割近くで最も高く、以下、「テレビ・ラジオなどのCM」(43.0%)、「職場での広報」(35.4%)などと続いている。

献血者を増やすために発信すべき情報

Q24 あなたは、より多くの方が献血をしようと思うためには、どのような情報を発信することが効果的だと思いますか。次の中から5つまで選んでください。

5MA (n=491)



【調査結果の概要】

献血者を増やすために発信すべき情報について聞いたところ、「献血に関する正しい知識(献血の種類・条件等)」(66.6%)が6割半ばで最も高く、以下、「提供した血液の具体的な使われ方」(55.8%)、「実際の献血の流れや所要時間」(50.1%)などと続いている。

献血についての要望・意見（自由意見）

Q25 献血の広報・普及啓発活動や献血全般について、あなたの意見を自由にお書きください。

(n=472)

- | | |
|----------------------|-------|
| (1) 広報、発信する情報に関すること | 188 件 |
| (2) 献血普及の取組、啓発に関すること | 148 件 |
| (3) 献血の印象・経験に関すること | 61 件 |
| (4) 献血への意向に関すること | 34 件 |
| (5) 献血への不安に関すること | 28 件 |
| (6) 献血の基準に関すること | 13 件 |

(主なご意見)

(1) 広報、発信する情報に関すること 188 件

- 輸血を必要としている人が毎日どれほどいて、どれだけの血液が足りないのかを発信するべき。これを知らない人が多すぎる。私は、1回の献血で5人が助かると聞いて、自分がやらねばと献血の必要性を感じた。手ぶらで、思いついたらできるのが献血の良いところだと思う。著名人、YouTuberによる自発的な啓発活動が望ましいが、現実はそうはならないので、東京都とともに「献血行ってみた」などを企画してほしい。
(女性 10代 中野区)
- 献血に対する見返り（記念品）で動機付けを行うことももちろん大切と思いますが、私は、献血が具体的にどのように役立っていて、意義があるのかを中心に広報した方がよいと思います。
(男性 20代 練馬区)
- 重要だと分かっているものの、どうしても億劫だと感じてしまうため、手軽さや重要性をアピールしていくことが効果的だと思う。
(男性 20代 八王子市)
- 献血された人、回復した人の声をテレビCMで聴き、献血の大切さを再認識しました。普段、テレビを観ることが多いので、テレビで詳しく教えてくれるといいなと思います。
(女性 30代 文京区)
- 若者の献血離れは意識していませんでした。役に立つことを身近に感じられれば、参加される方が増えるのではないかと思いました。寄附やボランティア等と同じように、誰かの助けになることが分かるような発信もしてはと思いました。
(女性 30代 杉並区)
- 元気な若者に献血してもらうためには、紙媒体やテレビよりも、ツイッターやインスタグラムを利用して広めてほしい。
(女性 40代 中央区)

- 私は出産時に大量出血をしました。当時大学病院内にある輸血をほぼ使っていました。感謝の気持ち一杯で、自分も献血したいと思いました。
しかし、一度輸血を受けると献血ができないことを知りました。もっと若いときに献血するタイミングはいくらでもあったのにと後悔しました。いつでもできる訳ではないという情報も正しく広く周知してほしいと思います。
(女性 40代 目黒区)
- 献血することによって、どれくらいの患者が助かっているのか、年間の数値データを自治体の広報紙などで詳しく知らせてほしい。どれくらい不足しているのか切実であれば、ニュースなどで特集を組んでもらい、現状報告や課題などを取り上げてもらおうと思う。
(男性 60代 小金井市)
- 私自身は高齢のため献血はできませんが、自分のためにも、他人のためにもよいことなのだとPRするのがよいと思います。
(男性 70歳以上 杉並区)
- 献血について、高齢者は何かの役に立っていると漠然と思うが、若い人たちは達成感や貢献度を欲していると思います。献血をされた方の感謝の言葉を、どこかで何らかの言葉を添えて案内するとういと思います。
広報は、献血してほしい年代を考慮して案内されるのがいいと思います。今回は20代から40代、次回は40代から60代のように、絞って広報する。今までにやってこなかった方法を一度考えるのもいいのではないのでしょうか。
(男性 70歳以上 大田区)

(2) 献血普及の取組、啓発に関すること 148件

- 大学の体育会等、献血が可能かつ集団行動している人々が多い環境にアプローチするとういのではないのでしょうか。一つの社会貢献としての認識が広まりやすく、その集団内の文化としても定着しやすい印象を持ちます。気軽に献血ができ、献血をする側にとってメリットがあると伝えられるとういと思います。
(女性 20代 府中市)
- 献血を広めるためには積極的な広報活動が必要だとは感じるが、現状、土日の予約無しで行う献血は、非常に時間がかかる。普及活動以前に、現状の問題点を改善していただきたい。
(男性 30代 中央区)
- 夜間も献血できれば、仕事帰りにできるのでいいと思う。
(女性 30代 新宿区)

- 駅前によく献血車が停まっていますが、駅は忙しい人ばかりでなかなか立ち止まる方はいないと感じます。ショッピングモールなどの広場なら、時間のある方も多いでしょうし、そのモールのクーポンを粗品にするのもありだと思います。血液サラサラ診断とか、献血する側のメリットを垂れ幕などにして、もっと押し出していると思います。献血は、輸血用という用途しか知らない人が多いかもしれません。
(女性 40代 墨田区)
- 自分は献血に行きたいと思っていますが、脚に障害を持っていて献血の場所まで行けないので、なるべくバリアフリーに対応した献血場所を設けてくださると助かります。検討をお願いします。
(男性 40代 昭島市)
- 献血ルームのような、いつでも献血ができるスポットがもっと増えるといいと思う。同時に、小さい頃から(小学校程度から)、「献血は必要」と知らせる授業を繰り返し行うといいと思う。
(女性 50代 三鷹市)
- 献血した血は、冷凍保存などで長く保存できるのかと思っていた。正しい知識と普及拡大はイコールかもしれない。銀行や郵便局、スーパー、市区役所に献血コーナーが隣接していれば、「ついでに献血」がしやすそう。
(女性 50代 稲城市)
- きっかけがないとなかなか始められないと思うので、献血できる年齢である高校生などを対象に、学校での説明会のようなものを開催したらよいと思う。一度経験すれば、気軽にその後も継続できると思う。
(女性 60代 江東区)
- 新型コロナの流行もあり、街頭での献血呼びかけは難しいかと思います。学校や職場での普及啓発活動に重点を置く方が、効果は高いと感じます。例えば、企業では、様々な認証(例えば環境関連)を受けていますが、献血に前向きに協力する組織に認証を与える方法はいかがでしょうか。法制度の改定等があるかもしれませんが。
(男性 60代 東村山市)

(3) 献血の印象・経験に関すること 61件

- 献血で貢献することがあるということを、なかなか実感できない。
(男性 30代 品川区)

- 自分はないのですが、知人が「せっかく行ったのに断られた」と言っていました。仕方ないと思いつつ、こういった体験が遠ざける原因になると思います。自分も稀にスタッフさんの対応を疑問に思うことがあります(補足ですが、大半はとても良い方です)。とても小さなことですが、特に初めての方などは「自分の血を提供する」という、いわば恐怖を越えてボランティア精神で来ているのに、こういった些細なことで「もう二度と献血しない」「そもそも献血しない(する必要がない)」などの気持ちになると思いました。
若い方の献血が減っているというのは、こういった小さなことの積み重ねだと思いました。もう少し安心感を与えることを地道に続けていかないと、なかなか難しいのではないかと思います。
(男性 40代 江東区)

- 初めて献血したのは学生の頃で、時間にゆとりがあり、自分の血液について知りたいと思ったからでした。その後、自分が手術したとき、お産のときに輸血のお世話になり、とても感謝しています。
時間があって健康な若い方をお願いしたいので、学生街などで定期的に行うといいと思います。献血してくださる方にもメリットがあることをもっとアピールするといいと思います。
(女性 60代 国立市)

- 献血は、約70回して、年齢制限で卒業したが、社会に貢献できたことがうれしかった。献血した人の声、もらった人の声をもっと広く伝えて、献血の意義や充実感を伝えてはどうだろうか。
(女性 70歳以上 新宿区)

(4) 献血への意向に関すること 34件

- 今後、なるべく献血に協力したい。
(女性 10代 荒川区)

- よくCMなどで見たり聞いたりしたものの、いざ行こうと思っても場所が入りづらかったり、近寄りがたい雰囲気があったため、行けなかった。今年中に1回経験しておこうと思う。
(女性 20代 北区)

- 献血が好きなので、できる限り協力したいですが、予約が埋まっていることが多く、献血できないことが多々あります。
(女性 40代 多摩市)

(5) 献血への不安に関すること 28件

- 周りと話すと、怖い・痛そうという意見が多かった。そこを解消できるというのではないかと思う。
(男性 10代 江東区)
- 一番は献血する場所が安心であり、採血方法も安心であることをアピールしてほしい。そこに恐怖心があり、逆に病気になるのでは、とってしまう。
(男性 20代 葛飾区)
- 過去に検査採血をした際に貧血を起こしてしまったことがあり、その不安から、献血をすることに対して抵抗がある。そのような経験を持つ人たちの不安を解消するような広報もしていただけたいのではないだろうか。
(男性 60代 江東区)

(6) 献血の基準に関すること 13件

- 献血の条件に該当しないと思っている人が案外多いと思う。もっと献血条件の周知をあらゆる年代に広報した方がいいと思う。
(男性 30代 武蔵野市)
- 献血は、自分自身の健康上にも良いことのアピールをもう少しの方がいいと思います。
また、献血できる年齢の上限も、あまり知られていないように思います。昔と違って、今の高齢者は健康な人も多いため、年齢制限の見直しなども考えられないでしょうか。
(男性 70歳以上 町田市)